

論語

本文：十三經注疏本

伊藤仁齋「論語古義」文政十二年、日本名家四書注釈全書、東洋図書刊行会、大正十一年、日本の名著13、中央公論社、昭和47(1972)年

荻生徂徠「論語徵」元文五年、平凡社東洋文庫、小川環樹訳注、1994年

簡野道明「論語解義」増訂版)明治書院、昭和6(1931)年

宇野哲人「論語新釈」弘道館、昭和4年、講談社学術文庫、1980年。

五十沢二郎「中国聖賢のことば」竹村書房、昭和8年、講談社学術文庫、1986年

武内義雄「論語」岩波文庫、昭和18(1943)年。清原家の定本にもとづき、唐開成石經を対照。

諸橋轍次「掌中論語の講義」大修館書店、昭和28年。論語の講義」同、昭和48年。

吉田賢抗「論語」明治書院「新釈漢文大系1」、昭和35年。昭和50年。

金谷治「論語」岩波文庫、昭和38(1963)年。武内にならう。

倉石武四郎「口語訳論語」日光書院、昭和24年、筑摩書房、昭和42年、同、1970年。

宮崎市定「論語の新研究」岩波書店、1974年。

加地伸行「論語」講談社学術文庫、2004年。十三經注疏本による。

學而第一

子曰、學而時習之、不亦說乎。有朋自遠方來、不亦樂乎。人不知而不慍、不亦君子乎。

伊藤仁齋 子の曰わく、學んで時にこれを習う。また説しからずや。朋あり遠方より来る、また樂しからずや。人知らず、而るに慍らず、また君子ならずや。

荻生徂徠 子曰はく、學んで時に之を習ふ。亦た説ばしからず乎。朋遠方自り来る有り。亦た樂しからず乎。人知らず、而るを慍せず。亦た君子ならず乎」と。

簡野道明 子曰く、學びて而して時に之を習ふ。亦説ばしからずや。朋遠方より來たる有り。亦樂しからずや。人知らずして慍みず。亦君子ならずや。

武内義雄 子曰く、學びて時に習ふ。亦説しからずや。有朋遠方より來たる、亦樂しからずや。人知らざるも慍みず、また君子ならずや。

諸橋轡次 子曰く、學びて時に之を習ふ、亦説ばしからずや。朋、遠方自より来る有り、亦樂しからずや。人知らずして慍らず、亦君子ならずや。

有子曰、其爲人也、孝弟而好犯上者鮮矣。不好犯上而好作亂者、未之有也。君子務本、本立而道生。孝弟也者、其爲仁之本與。

荻生徂徠 有子の曰く、其の人と爲りや孝弟にして而うして上を犯すことを好む者は鮮し。上を犯すことを好まずして、而うして亂を作すことを好む者は、未だ

之れ有らざるなり。君子は本を務む。本立つて道生ず。孝弟は、其れ仁の本と爲るな與か」と。

簡野道明

有子曰く、其の人と爲りや孝弟にして、而して上を犯すことを好む者は鮮し。

上を犯すことを好まずして亂を作すことを好むものは、未だ之有らざるなり。

君子は本を務む。本立ちて道生ず。孝弟やは、其れ仁の本と爲すか。

3. 子曰、巧言令色、鮮矣仁。

伊藤仁斎

子の曰わく、言を巧くし色を令くするは、鮮なし仁。

荻生徂徠

子曰はく、巧言令色は、仁なること鮮し」と。

簡野道明

子曰く、巧言令色、鮮し仁。

武内義雄

子曰く、言を巧し色を令するは、鮮し、仁あること。

諸橋轍次

子曰く、巧言令色は、鮮ないかな仁。

吉川幸次郎

子曰わく、巧言令色、鮮し仁。

宮崎市定

子曰く、巧言令色には、鮮いかな仁。

加地伸行

子曰く、巧言令色、鮮なし仁。

曾子曰、吾日三省吾身、爲人謀而不忠乎、與朋友交而不信乎、傳不習乎。

5. 子曰、道千乘之國、敬事而信、節用而愛人、使民以時。

伊藤仁斎

子の曰わく、千乗の國を道るには、事を敬して信に、用を節して人を愛し、民を使うに時をもつてす。

荻生徂徠

子曰はく、千乗の國に道るときに、事を敬して信に、用を節して人を愛す。民を使ふに時を以てす」と。

簡野道明

子曰く、千乗の國を道むるに、事を敬して信。用を節して人を愛し、民を使ふに時を以てす。

武内義雄

子曰く、千乗の國を導むるには、事を敬んで信あり、用を節して人を愛し、民を使ふに時を以てせよ。

諸橋轍次

子曰く、千乗の國を道むるには、事を敬して信あり、用を節して人を愛し、民を使ふに時を以てす。

宮崎市定

子曰く、千乗の國を道むるには、事を敬みて信あり、用を節して人を愛し、民を使うに時を以てす。

6. 子曰、弟子入則孝、出則弟、謹而信、汎愛衆而親仁。行有餘力則以學文。

伊藤仁斎

子の曰わく、弟子入つては則ち孝し、出でては弟し、謹んで信あり、汎く衆を愛して仁に親き、行なつて余力あるときは、則ち以つて文を学ぶ。

荻生徂徠

子曰はく、弟子入りては則ち孝、出ては則ち弟、謹しんで信、汎く衆を愛

簡野道明

して仁じんを親したしむ。行おこなふこと餘力よりよくあ有るときは、則ちすなは以て文ぶんを學まなぶ」と。
子曰く、弟子入りては則ち孝かう。出でては則ち弟てい。謹つつしみて而して信しん。汎ひろく衆しゆうを愛あいして仁じんに親したみ、行おこなひて餘力よりよくあらば則ちすなは以て文ぶんを學まなぶ。

武内義雄

子曰く、弟子入りては則ち孝かう、出でては則ち弟てい、謹つつしみて信しんあり、汎ひろく衆しゆうを愛あいして仁じんに親したみ、行おこなひて餘力よりよくあれば則ちすなは以て文ぶんを學まなべ。

諸橋轍次

子曰く、弟子、入りては則ち孝かう、出でては則ち弟てい、謹つつしみて信しんあり、汎ひろく衆しゆうを愛あいして仁じんに親したづき、行おこなひて餘力よりよくあらば、則ちもつ以て文ぶんを學まなばん。

宮崎市定

子曰く、弟子、入りては則ち孝かう、出でては則ち悌てい、謹つつしみて信しんあり、汎ひろく衆しゆうを愛あいして仁じんに親したしみ、行おこなひて餘力よりよくあれば則ちすなは以て文ぶんを學まなべ。

加地伸行

子曰く、弟子入りては則ち孝かう、出でては則ち悌ていたれ。謹つつしみて信しん、汎ひろく衆しゆうを愛あいして仁じんに親したづけ。行おこなないて餘力よりよくあらば、則ちもつ以て文ぶんを學まなべ。

フ

子夏曰、賢けん賢けん易色いしき、事父母、能竭其力、事君能致其身、與朋友交言而有信、雖曰未學、吾必謂之學矣。

8

子曰、君子不重則不威、學則不固、主忠信、無友不如己者、過則勿憚改。

伊藤仁齋

子曰わく、君子重おもからざるときは威おそあらず。學まなぶとき則ち固おこれず。忠信しんしんを主おもとす。己おのれに如ごとかざる者を友とする無なかれ。過あやつて則ち改あらむることに憚はばる

こと勿かれ。な

荻生徂徠

子曰はく、君子重くんしおもからざれば則ち威おのれせず。學なは則ち固こにせず。忠信ちゆうしんを主しゅとし、己おのれに如かざる者を友ともとすること無なかれ。過あやまつては則ち改あらたむるに憚はばかること勿なれ」と。

簡野道明

子曰しのたまはく、君子重くんしおもからざれば則ち威すなはあらず。學まなべば則ち固こならず。忠信ちゆうしんを主しゅとし、己おのれに如かざる者を友ともとすること無なかれ。過あやまつては則ち改あらたむるに憚はばかること勿なかれ。

武内義雄

子曰く、君子重おのれからざれば則ち威ひとあらず、學あやまべば則ち固かたくなならず。忠信したしに主しみ己おのれに如かざる者を友ともとするなかれ。過あやまてば則ち改はばかむるに憚はばかることなかれ。子曰く、君子重くんしおもからざれば則ち威すなはあらず。學がくべば則ち固こならず。忠信ちゆうしんを主しゅとせよ。己おのれに如かざる者を友ともとすること無なかれ。過あやまては則ち改すなはむるに憚はばかること勿なかれ。

諸橋轍次

宮崎市定

子曰く、君子重おのれからざれば威こあらず。學なべば固こならず。忠信なを主しゅとし、己おのれに如かざる者を友ともとするなかれ。過あやまては改はばむるに憚はばかること勿なれ。

加地伸行

子曰く、君子重くんしおもからざれば、則ち威すなわあらず。學まなびても則ち固こならず。忠信ちゆうしんを

主とし、己に如かざる者を友とする無かれ。過ちては則ち改むるに憚ること勿れ。

9. 曾子曰、慎終追遠、民德歸厚矣。

伊藤仁斎 曾子の曰わく、終わりを慎み遠きを追えば、民の徳厚きに歸す。

荻生徂徠 曾子の曰く、終りを慎しき遠きを追ふときは、民徳厚きに歸す」と。

簡野道明 曾子曰く、終を慎み遠きを追へば、民の徳厚に歸す。

武内義雄 曾子曰く、終を慎しき遠きを追へば、民の徳厚に歸せむ。

宮崎市定 曾子曰く、終を慎しき、遠きを追ふとあり、民の徳、厚に歸せしかな。

10. 子禽問於子貢曰、夫子至於是邦也、必聞其政、求之與、抑與之與、子貢曰、夫子溫良恭儉讓以得之、夫子之求之也、其諸異乎人之求之與。

11. 子曰、父在觀其志、父沒觀其行。三年無改於父之道、可謂孝矣。

伊藤仁斎 子の曰わく、父在すときはその志を觀、父没するときはその行を觀よ。三年父

の道を改むるなき、孝と謂うべし。

荻生徂徠 子曰はく、父在すときは、其の志を觀、父没するときは、其の行ひを觀

る。三年父の道に改むること無くして、孝と謂ふ可し。」と。

武内義雄 子曰く、父在すときは其志を觀、父没するときは其行を觀よ。三年父の道を改

むるなき、孝といふべし。

諸橋轍次

子曰く、父在すときは其の志を觀、父没するときは其の行を觀る。三年父の道を改むること無きは、孝と謂ふ可し。

12. 有子曰、禮之用和爲貴、先王之道斯爲美、小大由之、有所不行、知和而和、不以禮節之、亦不可行也。

13. 有子曰、信近於義、言可復也、恭近於禮、遠恥辱也、因不失其親、亦可宗也。

伊藤仁齋

有子の曰わく、信、義に近きときは、言復むべし。恭に近きときは、恥辱に遠ざかる。よつてその親を失わざれば、また宗とすべし。

荻生徂徠

有子の曰く、信義に近きは、言復む可し。恭禮に近きは、恥辱に遠ざかる。因其の親を失せざるは、亦た宗とす可しと。

簡野道明

有子曰く、信、義に近づけば、言復む可きなり。恭、禮に近づけば恥辱に遠ざかる。因ること其の親を失はざれば、亦宗ぶ可きなり。

武内義雄

有子曰く、信義に近きときは、言復むべきなり。恭禮に近きときは恥辱に遠ざかるべきなり。因むところ其親を失はざるときは亦宗ぶべきなり。

諸橋轍次

有子曰く、信、義に近きときは、言、復む可し。恭、禮に近きときは、恥辱に遠ざかる。因、其の親を失はざれば、亦宗とす可し。

宮崎市定

有子曰く、信は義に近ければ、言うこと復すべきなり。恭は礼に近ければ、恥辱に遠ざかるなり。因にて其の親を失わざれば、亦た崇ぶべきなり。

加地伸行 有子ゆうし曰いはく、信義しんぎに近ちかければ、言復げんふむべし。恭禮きようれいに近ちかければ、恥辱ちじよくに遠とほざる。

因よること其しんの親うしなを失ははざれば、亦宗またたふとぶ可べし。

14. 子曰、君子食無求飽居無求安、敏於事而慎於言、就有道而正焉、可謂好學也已。

伊藤仁齋 子の曰いわく、君子は食飽あかんことを求むることなく、居安やすからんことを求むることなく、事に敏みにして言を慎み、有道について正すを、學を好むと謂うべきなり。

子曰のたまはく、君子は食飽しよくあくことを求むること無く、居安きややすきことを求むること無く、事に敏みにして言に慎つつしむ。有道いうたうに就ついて焉これに正ただして、學がくを好むと謂いう可べき已のみと。

荻生徂徠 子曰のたまはく、君子は食飽しよくあくことを求むること無く、居安きややすきことを求むること無く、事に敏みにして言に慎つつしむ。有道いうたうに就ついて焉これに正ただして、學がくを好むと謂いう可べき已のみと。

簡野道明 子曰のたまはく、君子は食飽しよくあくことを求むること無く、居安きややすきことを求むること無く、事に敏みにして言に慎つつしむ。有道いうたうに就つきて正ただす。學がくを好むと謂いう可べきのみ。

武内義雄 子曰のたまはく、君子は食飽あかくことを求むることなく、居安きややすからむことを求むることなく、事に敏みして言を慎み、有道に就ついて正す、學を好むといふべきなり。

諸橋轍次 子曰いはく、君子は、食は飽あかんことを求むることなく、居は安やすからんことを求むることなく、事に敏みにして言に慎み、有道に就ついて正す。學がくを好むと謂いう可べきのみ。

宮崎市定 子曰のたまはく、君子は食に飽くを求むることなく、居に安きを求むることなく、事に敏みにして

言に慎み、有道に就いて正す。学を好むと謂うべきのみ。

加地伸行

子曰く、君子は食に飽くるを求むること無く、居るに安きを求むること無し。
事に敏に、言に慎み、有道に就きて正す。学を好むと謂う可きのみ。

15. 子貢曰、貧而無諂、富而無驕、何如。子曰、可也、未若貧而樂富而好禮者也。子貢曰、詩云、如切如磋如琢如磨、其斯之謂與。子曰、賜也始可與言詩已矣、告諸往而知來者。

16. 子曰、不患人之不己知、患不知人也。

伊藤仁斎

子曰わく、人の己れを知らざるを患えざれ。人を知らざることを患う。

荻生徂徠

子曰はく、大の己を知らざることを患へず、人を知らざることを患ふ」と。

簡野道明

子曰く、人の己を知らざるを患へず。人を知らざるを患ふ。

武内義雄

子曰く、人の己を知らざるを患へず、人を知らざるを患へよ。

諸橋轍次

子曰く、人の己を知らざるを患へず。人を知らざるを患ふ。

宮崎市定

子曰く、人の己を知らざるを患えず、人を知らざるを患うるなり。

爲政第二

一 子曰、爲政以德、譬如北辰居其所而衆星共之。

伊藤仁齋 子の曰わく、政を爲るに徳を以てすれば、譬へば北辰のその所に居て、衆星

のこれに共うが如し。

荻生徂徠 子曰はく、政を爲るに徳を以ふれば、譬へば北辰の其の所に居て而うし

て衆星の之に共するが如し」と。

簡野道明 子曰く、政を爲すに徳を以てするは、譬へば北辰の其の所に居て衆星の

之に共ふが如し。

武内義雄 子曰く、政を爲すに徳を以てすれば、譬へば北辰のその所に居て、衆星之を共

るが如し。

諸橋轍次 子曰く、政を爲すに徳を以てすれば、譬へば北辰の其の所に居て、衆星の

之に共ふが如し。

宮崎市定 子曰く、政を爲すに徳を以てす。譬へば北辰の其所に居りて、衆星の之に共う

が如きなり。

加地伸行 子曰く、政を爲すは徳を以てす。譬うれば北辰の其の所に居りて衆星之と

共にするが如し。

2. 子曰、詩三百、一言以蔽之、曰思無邪。

伊藤仁齋

子の曰わく、詩三百、一言以てこれを蔽おほう。曰わく、思おもひ邪よこしまなし。

荻生徂徠

子曰しのたまははく、詩三百、一言以て之これに蔽あつ。曰いわく、思おもふこと邪よこしまま無し」と。

簡野道明

子曰しのたまはく、詩三百、一言以て之これを蔽おほふ。曰いわく、思おもひ邪よこしま無しと。

武内義雄

子曰く、詩は三百、一言にして以て之これを蔽おほえば、曰く、思おもひ邪よこしまなし。

諸橋轍次

子曰く、詩三百、一言以て之これを蔽おほふ、曰く、思おもひ邪よこしま無し。

子曰、道之以政、齊之以刑、民免而無恥、道之以德、齊之以禮、有恥且格。

伊藤仁齋

子の曰わく、これを道みちくに政まつりごとを以てし、これを齊ととのうるに刑けいを以てすれば、民免れて恥なし。これを道みちくに徳とくを以てし、これを齊ととのうるに禮れいを以てすれば、恥あつて且かつつ格たし。

荻生徂徠

子曰しのたまはく、之を道みちびくに政まつりごとを以もちひ、之を齊ととのふるに刑けいを以もちふれば、民免たみまぬがれて恥はづること無し。之を道みちびくに徳とくを以もちひ、之を齊ととのふるに禮れいを以もちふれば、恥はづること有ありて且かつつ格たし」と。

簡野道明

子曰しのたまはく、之を道みちくに政まつりごとを以もちひ、之を齊ととのふるに刑けいを以てすれば、民免たみまぬがれて恥はなし。之を道みちくに徳とくを以てし、之を齊ととのふるに禮れいを以てすれば、恥は有ありて且かつつ格たし。

武内義雄

子曰く、之を導たくに政を以てし、之を齊ととのふるに刑を以てすれば民免れて恥なし。

之を導くに徳を以てし、之を齊ふるに禮を以てすれば、恥ありて且ただ格たし。

諸橋轍次

子曰く、之を道みちくに政まつりごとを以てし、之を齊ととのふるに刑けいを以てすれば、民免たみまぬがれて恥はぢ無し。之を道みちくに徳とくを以てし、之を齊れいふるに禮れいを以てすれば、恥あ有りて且か格いたる。

つ格いたる。

宮崎市定

子曰く、之を道みちくに政を以てし、之を齊とのうるに刑を以てすれば、民免れて恥たなし。之を道みちくに徳を以てし、之を齊たうるに禮を以てすれば、恥ありて且た格たし。

4. 子曰、吾十有五而志于學、三十而立、四十而不惑、五十而知天命、六十而耳順、七十而從心所欲不踰矩。

5. 孟懿子問孝。子曰、無違。樊遲御、子告之曰、孟孫問孝於我、我對曰無違。樊遲曰、何謂也。子曰、生事之以禮、死葬之以禮、祭之以禮。

6. 孟武伯問孝。子曰、父母唯其疾之憂。

7. 子游問孝。子曰、今之孝者是謂能養、至於犬馬、皆能有養、不敬何以別乎。

8. 子夏問孝、子曰、色難。有事弟子服其勞、有酒食先生饌、曾是以爲孝乎。

9. 子曰、吾與回言終日不違、如愚。退而省其私、亦足以發、回也不愚。

10. 子曰、視其所以、觀其所由、察其所安、人焉廋哉、人焉廋哉。

11. 子曰、溫故而知新、可以爲師矣。

伊藤仁齋 子の曰わく、故ふるきを温たずねて新しきを知らば、以つて師たるべし。

荻生徂徠 子曰はく、故を温こして新しんを知るは、以もつて師しと爲なる可べし」と。

簡野道明 子曰く、故ふるきを温あためて新あたしきを知しれば、以もつて師した爲べる可べし。

武内義雄 子曰く、故ふるきを温あためて新あたしきを知る、以もつて師しと爲なすべし。

諸橋轍次 子曰く、故ふるきを温たずねて新ししきを知しれば、以もつて師しと爲なす可べし。

宮崎市定 子曰く、故ふるきを温たずねて新ししきを知しれば、以もつて師しと爲なるべし。

12. 子曰、君子不器。

伊藤仁齋 子の曰わく、君子は器ならず。

荻生徂徠 子曰はく、君子は器きならず」と。

簡野道明 子曰く、君子は器きならず。

武内義雄 子曰く、君子は器きならずや。

諸橋轍次 子曰く、君子は器きならず。

宮崎市定 子曰く、君子は器きならず。

加地伸行 子曰く、君子は器きならず。

13. 子貢問君子。子曰、先行其事而後從之。

14. 子曰、君子周而不比、小人比而不周。

荻生徂徠 子曰はく、君子は周しうにして比ひならず、小人は比ひにして周しうならず」と。

簡野道明 子曰く、君子は周しうして比ひせず。小人は比ひして周しうせず。

武内義雄 子曰く、君子は周みて比らず、小人は比りて周まず。

諸橋轍次 子曰く、君子は周して比せず。小人は比して周せず。

宮崎市定 子曰く、君子は周して比せず。小人は比して周せず。

加地伸行 子曰く、君子は周して比せず。小人は比して周せず。

15. 子曰、學而不思則罔、思而不學則殆。

伊藤仁齋 子の曰わく、學んで思わざるときは則ち罔し。思いて學びざるときは則ち殆し。

荻生徂徠 子曰はく、學んで思はざるときは則ち罔ふ。思うて學びざるときは則ち殆しと。

武内義雄 子曰く、學びて思はざれば則ち罔く、思ひて學ばざれば則ち殆ふ。

諸橋轍次 子曰く、學びて思はざれば則ち罔し。思ひて學ばざれば則ち殆し。

16. 子曰、攻乎異端、斯害也已。

伊藤仁齋 子の曰わく、異端を攻るは、これ害のみ。

荻生徂徠 子曰はく、異端を攻むるは、斯れ害なる也已と。

簡野道明 子曰く、異端を攻むるは、斯れ害あるのみ。

武内義雄 子曰く、異端を攻むるは、斯れ害あるのみ。

諸橋轍次 子曰く、異端を攻むるは、斯れ害のみ。

宮崎市定 子曰く、異端を攻むるは、斯れ害なるのみ。

加地伸行 子曰く、異端を攻むるは、斯れ害あるのみ。

17. 子曰く、由、誨女知之乎。知之爲知之、不知爲不知、是知也。

18. 子張學干祿。子曰、多聞、闕疑慎言其餘、則寡尤。多見、闕殆慎行其餘、則寡悔。言寡尤行寡悔、祿在其中矣。

19. 哀公問曰、何爲則民服。孔子對曰、舉直錯諸枉、則民服、舉枉錯諸直、則民不服。

20. 季康子問、使民敬忠以勸、如之何。子曰、臨之以莊則敬、孝慈則忠、舉善而教不能、則勸。

21. 或謂孔子曰、子奚不爲政、子曰、書云孝乎、惟孝友于兄弟、施於有政、是亦爲政、奚其爲爲政。

22. 子曰、人而無信不知其可也。大車無輓小車無軌、其何以行之哉。

伊藤仁齋 子の曰わく、人にして信なくんば、その可なることを知らず。大車輓なく、小

車軌なくんば、それ何を以てかこれを行らんや。

荻生徂徠 子曰はく、大として信なくんば、其の可なるを知らず。大車輓無く、小車軌

なくんば、其れ何を以てか之を行らん哉」と。

武内義雄 子曰く、人にして信なければ、その可なるを知らざるなり、大車輓なく、小車

軌なくんばそれ何を以てか之を行らんや。

諸橋轍次

子曰く、人にして信なくんば、其の可なるを知らざるなり。大車、輓無く、小車、軌無くんば、其れ何を以て之を行らんや。

23. 子張問、十世可知也。子曰、殷因於夏禮、所損益可知也、周因於殷禮、所損益可知也、其或繼周者、雖百世可知也。

24. 子曰、非其鬼而祭之諂也、見義不爲無勇也。

伊藤仁齋 子の曰わく、その鬼に非ずしてこれを祭るは、諂へつらえるなり。義を見て爲せざる

は、勇なきなり。

荻生徂徠 子曰のたまはく、其の鬼に非ずして之を祭るは、諂へつらふなり。義を見て爲せざるは、勇

無なきなり」と。

簡野道明 子曰のたまはく、其の鬼にあらざして之を祭るは、諂へつらふなり。義を見て爲せさざるは、

勇無ゆうなきなり。

武内義雄 子曰く、其鬼に非ずして祭るは諂へつらふなり、義を見て爲せさるは勇なきなり。

諸橋轍次 子曰いはく、其の鬼に非ずして之を祭るは、諂へつらなり。義を見て爲せさるは、勇無

きなり。

宮崎市定 子曰く、其の鬼に非ずして之を祭るは諂へつらいなり。義を見て爲せさるは勇なき

なり。

加地伸行 子曰しいわく、其の鬼に非ずして之を祭るは、諂へつらうなり。義を見て爲せさるは、勇無

きなり。

八佾第三

1. 孔子謂季氏、八佾舞於庭、是可忍也、孰不可忍也。

2. 三家者以雍徹。子曰、相維辟公、天子穆穆、奚取於三家之堂。

3. 子曰、人而不仁、如禮何、人而不仁、如樂何。

伊藤仁斎 子の曰わく、人として仁ならずんば、禮を如何せん。人として仁ならずんば、

樂を如何せん。

荻生徂徠

子曰はく、大として不仁ならば、禮を如何せん。人として不仁ならば、樂を如何せん」と。

簡野道明

子曰く、人にして不仁ならば、禮を如何せん。人にして不仁ならば、樂を如何せん。

武内義雄

子曰く、人にして仁あらずんば、禮を如何せむ。人にして仁あらずんば、樂を如何せむ。

諸橋轍次

子曰く、人にして仁あらずんば、禮を如何にせん。人にして仁あらずんば、樂を如何にせん。

4. 林放問禮之本。子曰、大哉問、禮與其奢也寧儉、喪與其易也寧戚。

5. 子曰、夷狄之有君、不如諸夏之亡也。

伊藤仁斎

子の曰わく、夷狄の君あるは、諸夏の亡きが如くならず。

荻生徂徠

子曰はく、夷狄の君有るは、諸夏の亡きに如かず」と。

簡野道明

子曰く、夷狄の君有るは、諸夏の亡きに如かざるなり。

武内義雄

子曰く、夷狄の君有るは、諸夏の亡きにも如かざるなり。

諸橋轍次

子曰く、夷狄だも君有り、諸夏の亡きが如くならず

宮崎市定

子曰く、夷狄だも君有り、諸夏の亡きが如くならず。

加地伸行

(㊂)子曰く、夷狄の君有るは、諸夏の亡きに如かず。

加地伸行

(㊂)子曰く、夷狄すら之れ君有り。諸夏の亡きが如くならず。

季氏旅於泰山。子謂冉有曰、女弗能救與。對曰不能。子曰、嗚呼、曾謂泰山不如林放乎。

6. 7.

子曰、君子無所爭、必也射乎、揖讓而升、下而飲、其爭也君子。

伊藤仁齋

子曰わく、君子は争う所なし。必ずや射か。揖讓して升り、下つて飲む。

荻生徂徠

その争いや君子なり。

子曰はく、君子は争ふ所無し、必ずや射乎。揖讓して升下して飲ましむ。

簡野道明

其の争ひ也君子なり」と。

子曰く、君子は争ふ所無し、必ずや射か。揖讓して升下し、而して飲む。

武内義雄

子曰く、君子は争ふところなし、必ず射るとき乎、揖讓して升下し、而して

飲ましむ、その争は君子なり。

諸橋轍次

子曰く、君子は争ふ所無し。必ずや射か。揖讓して升り、下りて飲む。そ

の争や君子なり。

宮崎市定 子曰く、君子は争う所なし。必ずや射か。揖讓して升り、下りて飲む。其の

争いや君子なり。

加地伸行 子曰く、君子は争う所無し。必ずや射か。揖讓して升下し、而して飲む。

其の争いや君子なり

8. 子夏問曰、巧笑倩兮、美目盼兮、素以爲絢兮、何謂也。子曰、繪事後素。曰、禮後乎。子

曰、起予者商也、始可與言詩已矣。

9. 子曰、夏禮吾能言之、杞不足徵也。殷禮吾能言之、宋不足徵也。文獻不足故也。足則吾能徵之矣。

10. 子曰、禘自既灌而往者、吾不欲觀之矣。

伊藤仁斎 子の曰わく、禘すでに灌してよりのちは、吾これを觀ることを欲せず。

荻生徂徠 子曰はく、禘既に灌して自り往は、吾れ之を觀しめんことを欲せず」と。

武内義雄 子曰く、禘既に灌してより往は、吾之を觀るを欲せざるなり。

諸橋轍次 子曰く、禘、既に灌いで自り往は、吾之を觀ることを欲せず

11. 或問禘之說。子曰、不知也。知其說者之於天下也、其如示諸斯乎。指其掌。

12. 祭如在、祭神如神在。子曰、吾不與祭、如不祭。

伊藤仁斎 祭るに在すが如し。神を祭ること神在すが如し。子の曰わく、吾祭に與らざれば、祭らざるが如し。

荻生徂徠 祭ることまつ在いますが如ごとしとは、神しんを祭まつること神しん在いますが如ごとくするなり。子曰しのたまはく、

吾われ祭まつに與あづからざれば、祭まつらざる如ごとくす」と。

簡野道明 祭まつれば在いますが如ごとく、神かみを祭まつれば神かみ在いますが如ごとく。子曰しのたまはく、吾われ祭まつりに與あづからざれ

ば、祭まつらざるが如ごとくし。

武内義雄 祭まつるに在いますが如ごとくし、神かみを祭まつるに神かみ在いますが如ごとくす。子曰しのたまはく、吾われ祭まつりに與あづからざ

れば、祭まつらざるが如ごとくす。

宮崎市定 祭まつること祭まつにあるが如ごとくすれば、神かみは神かみ在いますが如ごとくし、とあり。子曰しのたまはく、吾われ与あづか

らざれば、祭まつるも祭まつらざるが如ごときなり。

加地伸行 祭まつれば在いますが如ごとくし。神かみ々々を祭まつれば神かみ々々在いますが如ごとくし。子曰しのたまはく、吾われ祭まつりに与あづからざ

れば、祭まつらざるが如ごとくし、と。

13. 王孫賈問曰、與其媚於奥、寧媚於竈、何謂也。子曰、不然、獲罪於天、無所禱也。

14. 子曰、周監於二代、郁郁乎文哉、吾從周。

15. 子入太廟每事問。或曰、孰謂鄒人之子知禮乎、入太廟每事問。子聞之曰、是禮也。

16. 子曰、射不主皮、爲力不同科、古之道也。

伊藤仁齋 子しのの曰たまわく、射しや、皮かわを主しなとせざるは、力ちからの科しなを同じゆうせざるがためなり。

古の道なり。

荻生徂徠 子曰しのたまはく、射しやは主皮しゆひせず、爲力ありよくは科くわを同じくせず。古いにしへの道みちなり」と。

武内義雄 子曰しのたまはく、射しやに皮かわを主しなとせざるは、力ちから科しなを同じくせざるが爲めなり、〔これ〕古

の道なり。

諸橋轍次 子曰く、射は主皮せず。力、科を同じくせざるが爲なり。古の道なり

17. 子貢欲去告朔之餼羊。子曰、賜也、爾愛其羊、我愛其禮。

18. 子曰、事君盡禮、人以爲諂也。

伊藤仁斎 子の曰わく、君に事えるに礼を尽くせば、人以て諂えりとなす。

荻生徂徠 子曰はく、君に事ふるに禮を盡せば、人以て諂ふと爲す」と。

簡野道明 子曰く、君に事へて禮を盡せば、人以て諂と爲すなり。

武内義雄 子曰く、君に事へて禮を盡せば、人以て諂らふと爲す。

諸橋轍次 子曰く、君に事へて禮を盡くせば、人は以て諂へりと爲す。

宮崎市定 子曰く、君に事うるに礼を尽せば、人は以て諂いとなすなり。

19. 定公問、君使臣、臣事君、如之何。孔子對曰、君使臣以禮、臣事君以忠。

20. 子曰、關雎樂而不淫、哀而不傷。

伊藤仁斎 子の曰わく、關雎は樂んで淫せず、哀んで傷らず。

荻生徂徠 子曰はく、關雎は、樂しんで淫せず、哀しんで傷らず」と。

武内義雄 子曰く、關雎は樂しむも淫せず、哀しむも傷らず。

諸橋轍次 子曰く、關雎は樂しんで淫せず、哀しんで傷らず。

21. 哀公問社於宰我。宰我对曰、夏后子以松、殷人以栢、周人以栗、曰使民戰栗。子聞之曰、

成事不説、遂事不諫、既往不咎。

22. 子曰、管仲之器小哉。或曰、管仲儉乎。曰、管氏有三歸、官事不攝、焉得儉。然則管仲知禮乎。曰、邦君樹塞門、管氏亦樹塞門、邦君爲兩君之好、有反玷、管氏亦有反玷。管氏而知禮、孰不知禮。

23. 子語魯大師樂曰、樂其可知也、始作翕如也、從之純如也、皦如也、繹如也、以成。

24. 儀封人請見曰、君子之至於斯也、吾未嘗不得見也。從者見之。出曰、二三子何患於喪乎、天下之無道也久矣、天將以夫子爲木鐸。

25. 子謂韶、盡美矣、又盡善也。謂武、盡美矣、未盡善也。

26. 子曰、居上不寬、爲禮不敬、臨喪不哀、吾何以觀之哉。

伊藤仁齋 子の曰わく、上に居て寛かならず、禮をなして敬まず、喪に臨んで哀しまずんば、吾何を以てこれを觀んや。

荻生徂徠 子曰はく、上に居て寛ならず、禮を爲して敬ならず、喪に臨んで哀しまずんば、吾何を以てか之を觀ん哉」と。

簡野道明 子曰く、上に居て寛ならず、禮を爲ひて敬せず、喪に臨みて哀しまずんば、吾何を以て之を觀んや。

武内義雄 子曰く、上に居て寛ならず、禮を爲して敬まず、喪に臨んで哀しまずんば、吾れ何を以てか之を觀んや。

宮崎市定 子曰く、上に居りて寛ならず、礼を爲して敬まず、喪に臨んで哀しまずんば、吾れ何を以て之を觀んや。

里仁第四

子曰、里仁爲美、擇不處仁、焉得知。

伊藤仁斎

子の曰わく、里さとすら仁なるを美うつくしとなす。擇えらんで仁に處をらずんば、焉いづくぞ知

荻生徂徠

子曰はく、仁じんに里をるを美びとす。擇えらびて仁に處をらずんば、焉いづくぞ知を得ん」と。

簡野道明

（仁に里るを美と爲す」は古言にして、孔子之を引く。仁に居るを「里仁」と曰ふは、孔子の時の言にあらず。ゆゑにその古言たることを知るなり。）
子曰く、仁に里るを美と爲す、擇えらびて仁に處をらずんば、焉いづくぞ知なるを得ん
と。君子は身の仁の上に居るを美德とす。若し分ち擇えらびて仁の上に居らざれば、如何ぞ真の智ある者と爲すことを得んやと。）

武内義雄

子曰く、仁に里るを美となす、擇えらびて仁に處をらず、焉いづくぞ知たるを得む。

諸橋轍次

子曰く、仁に里るを美と爲す。擇えらびて仁に處をらずんば、焉いづくぞ知たるを得ん。

吉川

子曰わく、里は仁を美しと爲す。擇えらんで仁に處をらずんば、焉いづくぞ知なるを得ん。

宮崎市定

子曰く、仁なるを美と爲す。択えらんで仁に處をらずんば、焉いづくぞ知なるを得ん。

家を求めるには人氣のよい里がいちばんだ、という古語がある。どんなに骨を折って探しても、人氣の悪い場所に当たたら、それは選択を誤ったと言うべきだ。）

加地伸行

子曰く、仁なるに里おれば美びを爲なさん。擇えらんで仁に處おらざれば、焉いづくぞ知たる

を得ん。情愛の厚いところに住めば、美しいことをするようになるだろう。探して、仁風のある土地に住むのでなければ、賢者ではない。）

2. 子曰、不仁者不可以久處約、不可以長處樂、仁者安仁、知者利仁。

伊藤仁斎

子の曰わく、不仁者は以て久しく約やくにおるべからず。以て長く樂たのしみにおるべからず。仁者は仁に安んじ、知者は仁を利す。

荻生徂徠

子曰はく、不仁者は以て久しく約やくに處る可からず、以て長く樂たのしみに處る可からず。仁者は仁を安んじ、知者は仁を利す」と。

武内義雄

子曰く、不仁者は以て久しく約まつしきに處るべからず、以て長く樂たのしみに處るべからず。仁者は仁に安んじ、知者仁を利とす。

諸橋轍次

子曰く、不仁者は以て久しく約やくに處る可からず。以て長く樂たのしみに處る可からず。仁者は仁を安んじ、知者は仁を利す

3. 子曰、唯仁者能好人、能惡人。

伊藤仁斎

子の曰わく、ただ仁者よく人を好し、よく人を惡む。

荻生徂徠

子曰はく、惟だ仁者は能く人を好し、能く人を惡む」と。

簡野道明

子曰く、惟仁者のみ能く人を好み、能く人を惡む。

武内義雄

子曰く、唯仁者能く人を好し、能く人を惡む。

4.

諸橋轍次 子曰く、惟仁者のみ能く人を好し、能く人を惡む

宮崎市定 子曰く、惟だ仁者のみ、能く人を好み、能く人を惡む。

子曰、苟志於仁矣、無惡也。

荻生徂徠 子曰はく、苟し仁に志ざすときは、惡無し」と。

簡野道明 子曰く、苟に仁に志せば、惡きことなし。

武内義雄 子曰く、苟に仁に志さば惡きことなし。

諸橋轍次 子曰く、苟くも仁に志せば、惡しきこと無し。

吉川 子曰わく、苟しくも仁に志ざせば、惡しきこと無き也。

宮崎市定 子曰く、苟くも仁に志さば、惡むなきなり。

加地伸行 子曰く、苟に仁に志さば、惡無きなり。

子曰、富與貴是人之所以欲也、不以其道得之不處也、貧與賤是人之所以惡也、不以其道得之不去也、君子去仁惡乎成名、君子無終食之間違仁、造次必於是、顛沛必於是。

伊藤仁齋 子の曰わく、富と貴きとは、これ人の欲する所なり。その道を以てせざれば、

これを得れども處らず。貧しきと賤しきとは、これ人の惡む所なり。その道を

以てせざれば、これを得れども去らず。君子仁を去つて惡んか名を成さん。

君子は食を終うる間も仁に違ふことなし。造次にも必ずここにおいてし、顛沛にも必ずここにおいてす。

荻生徂徠

子曰はく、富と貴とは、是れ人の欲する所なり。其の道を以て之を得ざれば、處らず。貧と賤とは、是れ人の惡む所なり。其の道を以て之を得ざれば、去らず。君子仁を去つて、惡んか名を成さん。君子終食の間も仁に違ふこと無し。造次にも必ず是に於てし、顛沛にも必ず是に於てす」と。

簡野道明

子曰く、富と貴とは、是れ人の欲する所なり。其の道を以てせざれば、之を得とも處らざるなり。貧と賤とは、是れ人の惡む所なり。其の道を以てせざれば、之を得とも去らざるなり。君子仁を去りて、惡んか名を成さむ。君子は終食の間も仁に違ふこと無く、造次にも必ず是に於てし、顛沛にも必ず是に於てす。

武内義雄

子曰く、富と貴きとは、これ人の欲するところなり、その道を以てせざればこれを得るも處らざるなり。貧きと賤きとは、これ人の惡むところなり、その道を以てせざれば、これを得るも去らざるなり。君子仁を去りて惡んか名を成さむ、君子は終食の間も仁を違ふことなく、造次にも必ず是においてし、顛沛にも必ず是に於いてす。

宮崎市定

子曰く、富と貴きとは、是れ人の欲する所なり。其の道を以て之を得しにあらざれば處らざるなり。貧と賤しきとは是れ人の惡む所なり。其の道を以て之

を得しにあらざれば去らざるなり。君子は仁を去りて、惡くにか名を成さん、君子は終食の間も仁に違^さうなく、造次^{ぞうじ}にも必ず是においてし、顛沛^{てんはい}にも必ず是においてす。

6. 子曰、我未見好仁者惡不仁者。好仁者無以尚之、惡不仁者其爲仁矣、不使不仁者加乎其身、有能一日用其力於仁乎、我未見力不足者、蓋有之矣。我未之見也。

7. 子曰、人之過也各於其黨、觀過斯知仁矣。

伊藤仁齋 子の曰わく、人の過ちや、各々其の党^{たぐひ}においてす。過ちを觀てここに仁を知

る。

荻生徂徠 子曰はく、大の過ちや、各の其の黨^{たぐひ}に於いてす。過ちを觀れば斯に仁を知

る」と。

簡野道明 子曰く、人の過^{しのたまは}や、各々其の黨^{ひと あやまち}に於てす。過^{あやまち}を觀て斯に仁を知る。

武内義雄 子曰く、民の過つや、各其黨^{たぐひ}に於てす。過を觀れば、斯ち仁を知るべし。

諸橋轍次 子曰く、人の過^{あやまち}は、各其の黨^{おのおのそ}に於てす。過^{あやまち}を觀ては斯に仁を知る。

吉川 子曰わく、人の過ちや、各其の黨^{ひと あやまち}に於いてす。過ちを觀て、斯に仁を知

る。

宮崎市定 子曰く、人の過ちや、各々其の党^{あやまち}においてす。過ちを觀て、斯に仁を知る。

加地伸行 子曰く、人の過^{あやまち}つや、各々其の党^{おのおのそ}に於いてす。過^{あやまち}を觀れば、斯ち仁を知る。

8. 子曰、朝聞道夕死可矣。

伊藤仁斎 子の曰わく、朝に道を聞いて夕に死すとも、可なり。

荻生徂徠 子曰はく、朝に道を聞かば、夕に死すとも、可なり」と。

武内義雄 子曰く、朝に道を聞かば夕に死すとも可なり。

諸橋轍次 子曰く、朝に道を聞けば、夕に死すとも可なり。

吉川 子曰わく、朝に道を聞かば、夕に死すとも可なり。

9. 子曰、士志於道、而恥惡衣惡食者、未足與議也。

荻生徂徠 子曰はく、士は道に志さず、而るに惡衣惡食を恥づる者は、未だ與に議す

るに足らず」と。

簡野道明 子曰く、士道に志して、惡衣惡食を恥づる者は、未だ與に議るに足らざる

なり。

武内義雄 子曰く、士道に志して惡衣惡食を恥づるものは與に議るに足らざるなり。

諸橋轍次 子曰く、士道に志して、惡衣惡食を恥づる者は、未だ與に議るに足らず。

10. 子曰、君子之於天下也、無適也、無莫也、義是與比。

伊藤仁斎 子の曰わく、君子の天下に於けるや、適もなく、莫もなし。義をこれ與に比う。

荻生徂徠 子曰はく、君子の天下に於けるや、適も無く、莫も無し。義之と與に比す

と。

簡野道明

子曰く、君子の天下に於けるや、適なきなり。莫なきなり。義と之れ與に比す。

武内義雄

子曰く、君子の天下に於けるや、適ふなく莫ふなく、義をこれ比む。

諸橋轍次

子曰く、君子の天下に於けるや、適も無く、莫も無く、義と與に比ふ。

吉川

子曰わく、君子の天下に於けるや、適きも無く、莫しきも無し。義にのみ之れ與に比しむ。

二 子曰、君子懷德、小人懷土、君子懷刑、小人懷惠。

伊藤仁斎

子曰わく、君子は徳に懷き、小人は土に懷く。君子は刑に懷き、小人は恵みに懷く。

荻生徂徠

子曰はく、君子徳を懷へば、小人土を懷ふ。君子刑を懷へば、小人恵を懷ふ。

簡野道明

子曰く、君子は徳を懷ひ、小人は土を懷ふ。君子は刑を懷ひ、小人は恵を懷ふ。

武内義雄

子曰く、君子徳を懷へば小人土を懷ひ、君子刑を懷へば小人恵を懷ふ。

諸橋轍次

子曰く、君子は徳を懷ひ、小人は土を懷ふ。君子は刑を懷ひ、小人は恵を懷ふ。

12. 子曰、放於利而行、多怨。

荻生徂徠

子曰はく、利に放りて行へば、恨み多し」と。

簡野道明 子曰く、利に放りて行へば、恨多し。

武内義雄 子曰く、利に放りて行へば恨多し。

諸橋轍次 子曰く、利に放りて行へば、恨多し。

宮崎市定 子曰く、利を放いままにして行えば、恨みを多くす。

13. 子曰、能以禮讓爲國乎、何有。不能以禮讓爲國、如禮何。

荻生徂徠 子曰はく、能く禮讓を以て國を爲めば何か有らん。禮讓を以て國を爲めず

んば、禮を如何」と。

武内義雄 子曰く、能く禮讓を以て國を爲めむか、政に従ふに於いて何かあらん。禮

讓を以て國を爲むる能はずんば、禮を如何せん。

14. 子曰、不患無位、患所以立、不患莫己知、求爲可知也。

伊藤仁齋 子の曰わく、位なきことを患えず、立たん所以を患えよ。己れを知ることなき

を患えざれ。知らるべきことを爲すことを求めよ。

荻生徂徠 子曰はく、位無きを患へず、立つ所以を患ふ。己を知ること莫きを患へず。

知らる可きことを爲すことを求む」と。

簡野道明 子曰く、位なきを患へず。立つ所以を患へよ。己を知らるること莫きを患

へず。知らる可きを爲すことを求めよ。

武内義雄

子曰く、位なきを患へず、立つ所以を患へよ。己を知る莫きを患えず、知らるべきを爲さむことを求めよ。

諸橋轍次

子曰く、位無きを患へずして、立つ所以を患ふ。己を知る莫きを患へずして、知らる可きを爲さんことを求む。

吉川

子曰わく、位無きを患えず、立つ所以を患う。己れを知ること莫きを患えず、知らるべきを爲すを求むる也。

宮崎市定

子曰く、位無きを患えず、以て立つ無きを患う。己を知るもの莫きを患えず。知らるべき無きを患うるなり。地位の無いことは患うるに足らぬ。地位にくく能力が無かつたらそれこそ問題だ。自分を知るものが無いのは患うるに足らぬ。人に知れる価値が無かつたら大へんだ。）

15. 子曰、參乎、吾道一以貫之。曾子曰、唯。子出。門人問曰、何謂也。曾子曰、夫子之道忠恕而已矣。

16. 子曰、君子喻於義、小人喻於利。

伊藤仁斎

子曰わく、君子は義に喩る、小人は利に喩る。

荻生徂徠

子曰はく、君子をば義に喩す。小人をば利に喩す」と。

武内義雄

子曰く、君子は義に喩り、小人は利に喩る。

吉川

子曰わく、君子は義に喩り、小人は利に喩る。

17. 子曰、見賢思齊焉、見不賢而内自省也。

伊藤仁齋

子の曰わく、賢を見ては齊ひとしからむことを思い、不賢を見て内に自かえりから省みみよ。

荻生徂徠

子曰はく、賢けんを見ては齊ひとししからんことを思ふ。不賢ふけんを見ては、内うちに自みづから省せいす」と。

簡野道明

子曰く、賢けんを見ては、齊ひとしからんことを思ひ、不賢ふけんを見ては、内うちに自みづから省かみるなり。

武内義雄

子曰く、賢さかしきを見ては齊ひとしからむことを思ひ、不賢さかしからぬを見ては内に自うちら省みみよ。

諸橋轍次

子曰く、賢けんを見ては齊ひとししからんことを思ひ、不賢ふけんを見ては内うちに自みづから省かえりみる。

宮崎市定

子曰く、賢を見ては齊しからむことを思い、不賢を見ては内に自みづから省かえりみるなり。
えらい人間を見たなら、付きあつて見習うがよい。悪いやつを見た時は、わがふりを正せ。）

18.

子曰、事父母幾諫、見志不從、又敬不違、勞而不怨。

19.

子曰、父母在、不遠遊、遊必有方。

20.

子曰、三年無改於父之道、可謂孝矣。

21.

子曰、父母之年、不可不知也、一則以喜、一則以懼。

22.

子曰、古者、言之不出、恥躬之不逮也。

伊藤仁齋

子の曰わく、古者は言の出ださざるは、躬みの逮およばざるを恥じてなり。

荻生徂徠

子曰はく、古者言の出ださざるは、躬みの逮およばざるを恥はぢてなり」と。

簡野道明

子曰く、古者言を之れ出さざるは、躬みの逮およばざるを恥はぢてなり。

武内義雄

子曰く、古ひとの者ものの言ことを出さざるは、躬みづからの逮おとばざらむことを恥はづればなり。

諸橋轍次

子曰く、古こ者しや言げんを之これ出いださざるは、躬みの逮おとばざるを恥はぢてなり。

吉川

子曰わく、古こ者しや、言げんを出いださざるは、躬みの逮おとばざるを恥はずる也なり。

宮崎市定

子曰く、古こは、之これを言いわんとして出いださず。躬みづからの逮おとばざるを恥はずればなり。

23. 子曰、以約失之者鮮矣。

伊藤仁斎

子曰わく、約やくを以もつてこれこれを失しつうものは鮮すくなし。

荻生徂徠

子曰はく、約やくを以もつて之これを失しつする者ものは鮮すくし」と。

簡野道明

子曰く、約やくを以もつて之これを失しつふ者ものは鮮すくし。

武内義雄

子曰く、約やくを以もつて失あやまつものは鮮すくし。

吉川

子曰わく、約やくを以もつて之これを失しつする者ものは、鮮すくし。

宮崎市定

子曰く、約やくを以もつて之これを失しつう者ものは鮮すくなし。逆境ぎやくけいにおかれたために大失敗だいしぱいするこ

とは滅多めつたにない。）

加地伸行

子曰く、約やくを以もつて之これを失うしなふ者ものは、鮮すくなし。貧困ひんこんならば、それ以上いじやう、もう失うう

ものはない。）

24. 子曰、君子欲訥於言、敏於行。

伊藤仁斎

子曰わく、君子くんしは言ことに訥おそうして行とに敏とからんことを欲ほす。

荻生徂徠 子曰はく、君子は言に訥にして行ひに敏ならんことを欲す」と。

武内義雄 子曰く、君子は言に訥して、行に敏からむことを欲す。

諸橋轍次 子曰く、君子は言に訥にして行に敏ならんことを欲す。

吉川 子曰わく、君子は言に訥にして、行に敏ならんことを欲す。

25. 子曰、德不孤必有鄰。

伊藤仁斎 子曰わく、徳孤ならず、必ず鄰しみあり。

荻生徂徠 子曰はく、徳孤ならず、必ず鄰有り」と。

簡野道明 子曰く、徳孤ならず、必ず鄰あり。

武内義雄 子曰く、徳孤ならず、必ず鄰あり。

吉川 子曰わく、徳は孤ならず、必ず鄰あり。

宮崎市定 子曰く、徳は孤ならず、必ず鄰あり。

26. 子游曰、事君數斯辱矣、朋友數斯疏矣。

公治長第五

1. 子謂公治長、可妻也、雖在縲紲之中、非其罪也。以其子、妻之。
2. 子謂南容、邦有道不廢、邦無道免於刑戮。以其兄之子妻之。
3. 子謂子賤、君子哉若人、魯無君子者、斯焉取斯。
4. 子貢問曰、賜也何如。子曰、女器也。曰、何器也。曰、瑚璉也。
5. 或曰、雍也仁而不佞。子曰、焉用佞、禦人以口給、屢憎於人、不知其仁、焉用佞。
6. 子使漆彫開仕。對曰、吾斯之未能信。子說。
7. 子曰、道不行、乘桴浮于海、從我者其由與。子路聞之喜。子曰、由也、好勇過我、無所取材。

荻生徂徠 子曰はく、道行はれず、桴いかだに乗つて海かいに浮ばん、我しに従はむ者は其れ由いう與かと。子路之を聞いて喜ぶ。子曰はく、由也勇を好むこて我れに過ぐ、材さいを取ると所無し」と。

武内義雄 子曰く、道行はれずんば桴いかだにのりて海に浮ばむ、我に従はむ者はそれ由か。子路之を聞きて喜ぶ。子曰、由は勇を好むこて我に過ぎたり、然れども」桴」材を取るところなからむ。

8. 孟武伯問、子路仁乎。子曰、不知也。又問。子曰、由也千乘之國可使治其賦也、不知其仁也。求也何如。子曰、求也千室之邑、百乘之家、可使爲之宰也、不知其仁也。赤也何如。子曰、赤也束帶立於朝、可使與賓客言也、不知其仁也。
9. 子謂子貢曰、女與回也孰愈。對曰、賜也何敢望回、回也聞一以知十、賜也聞一以知二。子曰、弗如也。吾與女弗如也。

10. 宰予晝寢。子曰、朽木不可雕也、糞土之牆不可朽也。於予與何誅。子曰、始吾於人也、聽其言而信其行、今吾於人也、聽其言而觀其行、於予與改是。

荻生徂徠 宰予晝寢す。子曰はく、朽木をば雕すべからず、糞土の牆をば、朽すべから

ず。予に於いて與何ぞ誅めん」と。子曰はく、始め吾れ人に於ける也、其の言を聽いて其の行ひを信ず。今吾れ人に於けるや、其の言を聽いて其の行ひを觀る。予に於いてか是れを改む」と。

武内義雄 宰予晝寢ぬ。子曰く、朽ちたる木は雕るべからず、糞土の牆は朽すべから

ず、宰予に於いて何をか誅めむ。子曰く、始め吾、人に於けるや、其言を聽きて其行を信ぜり、今吾、人に於けるや、其言を聽きて其行を觀る、宰予に於いて是を改めたり。

諸橋轍次 宰予晝寢ねたり。子曰く、朽木は雕る可からず、糞土の牆は、朽る可からず。

予に於てか何ぞ誅めん。子曰く、始め吾、人に於けるや、其の言を聽いて其の行を信じたり。今吾、人に於けるや、其の言を聽いて其の行を觀る。予に於てか是を改めたり。

11. 子曰吾未見剛者。或對曰、申枨。子曰、枨也慾、焉得剛。

12. 子貢曰、我不欲人之加諸我也、吾亦欲無加諸人。子曰、賜也、非爾所及也。

13. 子貢曰、夫子之文章可得而聞也、夫子之言性與天道、不可得而聞也。

14. 子路有聞未之能行、唯恐有聞。

15. 子貢問曰、孔文子何以謂之文也。子曰、敏而好學、不恥下問、是以謂之文也。

16. 子謂子產、有君子之道四焉、其行己也恭、其事上也敬、其養民也惠、其使民也義。

17. 子曰、晏平仲善與人交、久而敬之。

伊藤仁斎 子の曰わく、晏平仲あんぺいちゆう善く人と交わる。久くして人これを敬す。

荻生徂徠 子曰はく、晏平仲あんぺいちゆう、善く人と交はる、久しうして人これ之を敬す」と。

武内義雄 子曰く、晏平仲よ善く人と交り、久くして人これを敬ふ。

諸橋轍次 子曰く、晏平仲あんぺいちゆう、善く人と交はる。久しくして之を敬す。

18. 子曰、臧文仲居蔡、山節藻梲、何如其知也。

19. 子張問曰、令尹子文三仕爲令尹、無喜色、三已之、無愠色、舊令尹之政、必以告新令尹、

何如。子曰、忠矣。曰、仁矣乎。曰、未知、焉得仁。崔子弑齊君、陳文子有馬十乘、棄

而違之、至於他邦、則曰猶吾大夫崔子也、違之。之一邦、則又曰、猶吾大夫崔子也、違之。

何如。子曰、清矣。曰、仁矣乎。曰、未知、焉得仁。

20. 季文子三思而後行。子聞之曰、再斯可矣。

21. 子曰甯武子、邦有道則知、邦無道則愚、其知可及也、其愚不可及也。

22. 子在陳曰、歸與歸與、吾黨之小子、狂簡斐然成章、不知所以裁之。

23. 子曰、伯夷叔齊不念舊惡、怨是用希。

伊藤仁斎 子の曰わく、伯夷・叔齊はくい しゆくせいは舊惡を念わず。怨みこをもつて希なり。

荻生徂徠 子曰はく、伯夷・叔齊はくい しゆくせいは、舊惡を念はず、怨み是れを用て希なり」と。

簡野道明 子曰く、伯夷・叔齊は舊惡を念はず、怨是を用て希なり。

武内義雄 子曰く、伯夷叔齊は舊惡を念はず、怨是を用て希なり。

宮崎市定 子曰く、伯夷、叔齊は、旧惡を念わず。怨み、是をもつて希なり。

24. 子曰、孰謂微生高直、或乞醢焉、乞諸其鄰而與之。

25. 子曰、巧言令色足恭、左丘明恥之、丘亦恥之。匿怨而友其人、左丘明恥之、丘亦恥之。

26. 顏淵季路侍。子曰、盍各言爾志。子路曰、願車馬衣輕裘與朋友共敝之而無憾。顏淵曰、願

無伐善無施勞。子路曰、願聞子之志。子曰、老者安之、朋友信之、少者懷之。

27. 子曰、已矣乎、吾未見能見其過、而內自訟者也。

28. 子曰、十室之邑、必有忠信如丘者焉。不如丘之好學也。

伊藤仁齋 子の曰わく、十室の邑、必ず忠信丘がごとき者あり。丘が學を好むに如かじ。

簡野道明 子曰く、十室の邑、必ず忠信丘が如き者有らん。丘の學を好むが如くなら

ざるなり。

武内義雄 子曰く、十室の邑にも、必ず忠信丘の如きものはあらむ、丘の好學には如かざ

るべし。

諸橋轍次 子曰く、十室の邑にも、必ず忠信、丘が如き者有らん。丘の學を好むに如か

ざるなり。

宮崎市定 子曰く、十室の邑に、必ずや忠信の丘の如き者あらん。丘の學を好むに如か

ざるなり。

雍也第六

1. 子曰、雍也可使南面。
 2. 仲弓問子桑伯子。子曰、可也、簡。仲弓曰、居敬而行簡、以臨其民、不亦可乎、居簡而行簡、無乃大簡乎。子曰、雍之言然。
 3. 哀公問、弟子孰爲好學。孔子對曰、有顏回者好學、不遷怒、不貳過。不幸短命死矣、今也則亡、未聞好學者也。
 4. 子華使於齊、冉子爲其母請粟。子曰、與之釜。請益。曰、與之庾。冉子與之粟五秉。子曰、赤之適齊也、乘肥馬、衣輕裘。吾聞之也、君子周急不繼富。
 5. 原思爲之宰、與之粟九百、辭。子曰、毋、以與爾鄰里鄉黨乎。
 6. 子謂仲弓、曰、犁牛之子騂且角、雖欲勿用、山川其舍諸。
 7. 子曰、回也、其心三月不違仁、其餘則日月至焉而已矣。
 8. 季康子問、仲由可使從政也與。子曰、由也果、於從政乎何有。曰、賜也可從政也與。曰、賜也達、於從政乎何有。曰、求也可使從政也與。曰、求也藝、於從政乎何有。
 9. 季氏使閔子騫爲費宰。閔子騫曰、善爲我辭焉、如有復我者、則吾必在汶上矣。
 10. 伯牛有疾、子問之、自牖執其手、曰、亡之、命矣夫、斯人也而有斯疾也、斯人也而有斯疾也。
 11. 子曰、賢哉、回也、一簞食、一瓢飲、在陋巷、人不堪其憂、回也不改其樂。賢哉、回也。
 12. 冉求曰、非不說子之道、力不足也。子曰、力不足者、中道而廢。今女畫。
 13. 子謂子夏曰、女爲君子儒、無爲小人儒。
- 伊藤仁齋 子子夏に謂かたつつて曰わく、女君子なんぢの儒たれ、小人の儒となることなかれ。

荻生徂徠 子^し子^か夏^かに謂^いつて曰^{のたま}はく、女^{なんぢ}君子^{じゆ}の儒^なを爲^なせ、小人^{せうじん}の儒^なを爲^なすこと無^なかれ」と。

武内義雄 子^し、子^か夏^かに謂^いて曰^{のたま}く、女^{なんぢ}君子^{じゆ}の儒^なとなれ、小人^{せうじん}の儒^なとなるなかれ。

諸橋轍次 子^し、子^か夏^かに謂^いひて曰^いく、女^{なんぢ}、君子^{じゆ}の儒^なと爲^なれ。小人^{せうじん}の儒^なと爲^なること無^なかれ。

14. 子游爲武城宰。子^し曰^い、女^{なんぢ}得人^{じゆん}焉耳乎。曰^い、有^あ澹台滅明者、行不由徑、非公事、未嘗至於偃之室也。

15. 子^し曰^い、孟^{めい}之反不伐、奔而殿、將入門、策其馬、曰^い、非敢後也、馬不進也。

16. 子^し曰^い、不有祝鮀之佞、而有宋朝之美、難乎免於今之世矣。

17. 子^し曰^い、誰能出不由戸、何莫由斯道也。

18. 子^し曰^い、質勝文則野、文勝質則史。文質彬彬、然後君子。

伊藤仁斎 子^しの曰^いわく、質^{しつ}文^{ぶん}に勝^かつときは則^{すなは}ち野^やなり。文^{ぶん}質^{しつ}に勝^かつときは則^{すなは}ち史^しなり。文^{ぶん}

質^{しつ}彬彬^{びん}として、然^{しか}してのち君子^{くんし}なり。

荻生徂徠 子^し曰^いはく、質^{しつ}文^{ぶん}に勝^かつときは則^{すなは}ち野^や、文^{ぶん}質^{しつ}に勝^かつときは則^{すなは}ち史^し、文^{ぶん}質^{しつ}彬彬^{びん}と

して、然^{しか}うして後^{のち}君子^{くんし}なり」と。

武内義雄 子^し曰^いく、質^{しつ}文^{ぶん}に勝^かるときは則^{すなは}ち野^や、文^{ぶん}質^{しつ}に勝^かるときは則^{すなは}ち史^し、文^{ぶん}質^{しつ}彬彬^{びん}りて然^{しか}

して後^{のち}君子^{くんし}なり。

19. 子^し曰^い、人之生也直、罔^{なま}之生也幸而免^い。

伊藤仁斎 子^しの曰^いわく、人^{ひと}の生^{なま}まるや直^ちし。これ^{これ}を罔^{なま}して生^いるは、幸^{さい}いにして免^いるなり。

荻生徂徠 子曰はく、大の生や直なり、之を罔して生くるや幸ひにして免れたるなりと。

武内義雄 子曰く、人の生るは直ければなり、罔りて生くるは幸にして免れたるなり。

諸橋轍次 子曰く、人の生けるや直ければなり。之罔くして生けるは、幸にして免るるなり。

20. 子曰、知之者不如好之者、好之者不如樂之者。

21. 子曰、中人以上、可以語上也、中人以下、不可以語上也。

伊藤仁斎 子の曰わく、中人以上には、以て上を語ぐべし。中人以下には、以て上を語ぐべからず。

荻生徂徠 子曰はく、中人以上には、以て上を語ぐべし、中人以下には、以て上を語ぐべからず」と。

武内義雄 子曰く、中人より以上には以て上を語るべく、中人より以下には以て上を語るべからず。

諸橋轍次 子曰く、中人以上は、以て上を語る可し。中人以下は、以て上を語る可からず。

22. 樊遲問知。子曰、務民之義、敬鬼神而遠之、可謂知矣。問仁。曰、仁者先難而後獲、可謂仁矣。

23. 子曰、知者樂水、仁者樂山。知者動、仁者靜。知者樂、仁者壽。

伊藤仁斎 子の曰わく、知者は水を樂しむ、仁者は山を樂しむ。知者は動く、仁者は静か

なり。知者は樂しむ、仁者は壽し。
のたま ちしや たの みづ じんしや いのちなが

荻生徂徠 子曰はく、知者の樂しみは水、仁者の樂しみは山と、知者は動き、仁者は靜
のたま ちしや たの みづ じんしや やま うご しづ

かに、知者は樂しみ、仁者は壽ながし」と。

武内義雄 子曰く、知者は水を樂しみ、仁者は山を樂しむ。知者は動き、仁者は靜なり。
しづか

知者は樂しみ、仁者は壽ながし。

諸橋轍次 子曰く、知者は水を樂しむ。仁者は山を樂しむ。知者は動く。仁者は靜かなり。
ちしや たの うご しづ

知者は樂しむ、仁者は壽し。
いのちなが

24. 子曰、齊一變、至於魯、魯一變、至於道。

25. 子曰、觚不觚、觚哉、觚哉。

26. 宰我问曰、仁者、雖告之曰、井有仁焉。其從之也、子曰、何爲其然也、君子可逝也、不可陷也、可欺也、不可罔也。

27. 子曰、君子博學於文、約之以禮、亦可以弗畔矣夫。

伊藤仁斎 子の曰わく、君子博く文を學び、これを約するに禮を以てせば、また以て畔
つしまやか そむ
かざるべし。

荻生徂徠 子曰はく、君子博く文に學び、之を約するに禮を以てせば、亦た以て畔かざ
のたま ひろ ぶん まな れい そむ

るべき夫」と。

武内義雄 子曰く、君子博く文を學びて、之を約にするに禮を以てすれば、亦以て道
つしまやか

に」畔かざるべし。

諸橋轍次 子曰く、君子博く文を學び、之を約するに禮を以てせば、亦以て畔かざる可し。

28. 子見南子、子路不説。夫子矢之曰、予所否者、天厭之、天厭之。

29. 子曰、中庸之爲徳也、其至矣乎、民鮮久矣。

伊藤仁斎 子の曰わく、中庸の徳たる、それ至れるか。民鮮きこと久し。

荻生徂徠 子曰はく、中庸の徳たる也、それ至れる乎、民鮮きこと久し」と。

武内義雄 子曰く、中庸の徳たるそれ至れるかな、民久しくする鮮し。

諸橋轍次 子曰く、中庸の徳爲るや、其れ至れるかな。民鮮なきこと久し。

30. 子貢曰、如有博施於民而能濟衆、何如、可謂仁乎。子曰、何事於仁、必也聖乎、堯舜其猶病諸、夫仁者、己欲立而立人、己欲達而達人。能近取譬、可謂仁之方也已。

述而第七

子曰、述而不作、信而好古、竊比於我老彭。

伊藤仁齋 子の曰わく、述べて作らず、信じて古を好む。竊に我が老彭に比す。

荻生徂徠 子曰はく、述べて作せず、信じて古へを好む」と。竊かに我が老彭に比す」と。

簡野道明 子曰く、述べて作らず、信じて古を好む。竊に我が老彭に比す。

武内義雄 子曰く、述べて作らず、信じて古を好み、竊かに我を老彭に比す。

諸橋轍次 子曰く、述べて作らず。信じて古を好む。竊かに我を老彭に比す。

宮崎市定 子曰く、述べて作らず、信じて古を好む。竊かに我が老彭に比す。

子曰、默而識之、學而不厭、誨人不倦、何有於我哉。

伊藤仁齋 子の曰わく、黙してこれを識るに、學んで厭わず、人を誨えて倦まず、何か我にあるや。

荻生徂徠 子曰はく、黙して之を識り、學びて厭はず、人を誨へて倦まざるは、何ぞ我れに有らん哉」と。

簡野道明 子曰く、黙して之を識し、學びて厭はず、人を誨へて倦まず。何ぞ我に有らんや。

武内義雄 子曰く、黙して識り、學びて厭はず、人を誨へて倦まざること、我において何

かあらむ。

宮崎市定 子曰く、黙してこれを識り、学んで厭わず、人を誨えて倦まず。我において何かあらんや。

3. 子曰、徳之不脩、學之不講、聞義不能徙、不善不能改、是吾憂也。

4. 子之燕居、申申如也、夭夭如也。

5. 子曰、甚矣、吾衰也。久矣、吾不復夢見周公。

6. 子曰、志於道、據於徳、依於仁、遊於藝。

7. 子曰、自行束脩以上、吾未嘗無誨焉。

8. 子曰、不憤不啓、不悱不發。舉一隅不以三隅反、則不復也。

伊藤仁齋 子の曰わく、憤せざれば啓せられず、悱せざれば發せられず。一隅を擧ぐるに、

三隅を以て反せざれば、則ち復せられず。

荻生徂徠

子曰はく、憤せざれば啓せず、悱せざれば發せず、一隅を擧ぐるに、三隅を

以て反さふせざれば、則ち復せず」と。

簡野道明

子曰く、憤せずんば啓せず。悱せずんば發せず。一隅を擧げて而して之に示

し、三隅を以て反せずんば、則ち復せざるなり。

武内義雄

子曰く、憤えずんば啓へず、悱まずんば發さず、一隅を擧げて之に示して三隅

を以て反みざれば復教へざるなり。

諸橋轍次

子曰く、憤せざれば啓せず。悱せざれば發せず。一隅を擧げて三隅を以て反せ

ざれば、すなは則ち復ふたびせざるなり

宮崎市定

子曰く、いきじお憤ふんらざれば啓ひせず、かえ忤ひせざれば發はせず。一隅いちぐうを擧あげて、三隅さんぐうを以て反はん

反はんさざれば、復ふたたせざるなり。

加地伸行

子曰く、しいわ憤ふんせずんば啓ひかず、すなわ忤ふたせざれば發おこさず。一隅いちぐうを擧あげて、三隅さんぐうを以て反はん

せずんば、則ち復ふたびせず。

9. 子食於有喪者之側、未嘗飽也。

10. 子於是日哭、則不歌。

11. 子謂顏淵曰、用之則行、舍之則藏、唯我與爾有是夫。子路曰、子行三軍、則誰與。子曰、

暴虎馮河、死而無悔者、吾不與也。必也臨事而懼、好謀而成者也。

12. 子曰、富而可求也、雖執鞭之士、吾亦爲之。如不可求、從吾所好。

伊藤仁齋 子の曰わく、富とみしかも求むべくんば、執鞭しつぺんの士こといえども、吾またこれを爲なさ

ん。如もし求むべからずんば、吾が好む所に従したがわん。

荻生徂徠

子曰はく、富とみ而しかも求むべくんば、執鞭しつぺんの士しと雖いへども、吾われも亦た之を爲なん。如もし

求む可からずんば、吾が好む所に従したがはん」と。

武内義雄

子曰く、富にして求むべくんば執鞭の士 事ことといへども、吾亦之を爲なさむ、

如もし求むべからずんば、吾が好むところに従したがはむ。

加地伸行

子曰く、富とみ求む可くんば、執鞭しつぺんの士しと雖いへども、吾われも亦之を爲なさん。如もし求む可

13. 子之所愼、齋、戰、疾。
からずんば、吾が好む所に從わん。

14. 子在齊聞韶、三月不知肉味、曰、不圖爲樂之至於斯也。

伊藤仁齋
子齊にあつて韶を聞く。三月肉の味を知らず。曰わく、圖らざりき、樂を爲るのここに至らんとは。

荻生徂徠
子齊に在して韶を聞くこと三月、肉の味ひを知らず。曰はく、圖らざりき樂を爲すことの斯に至らんとは」と。

簡野道明
子齊に在して韶を聞くこと三月、肉の味を知らず。曰く、圖らざりき樂を爲ることに至らんとは。

武内義雄
子齊に在まして韶を聞くこと三月、肉の味を知らず、曰く、圖らざりき、樂を爲すことの斯に至らむとはと。

諸橋轍次
子、齊に在り。韶を聞くこと三月、肉の味を知らず。曰く、圖らざりき、樂を爲すの斯に至らんとは。

宮崎市定
子、齊にありて韶を聞く。三月肉の味を知らず。曰く、圖らざりき、樂を爲すの斯に至るや。

加地伸行
子齊に在りて、韶を聞くこと三月、肉の味を知らず。曰く、圖らざりき、樂を

爲すの斯に至らんとは、と。

15. 冉有曰、夫子爲衛君乎。子貢曰、諾、吾將問之。入、曰、伯夷、叔齊何人也。曰、古之賢人也。曰、怨乎。曰、求仁而得仁、又何怨。出、曰、夫子不爲也。

16. 子曰、飯疏食飲水、曲肱而枕之、樂亦在其中矣。不義而富且貴、於我如浮雲。

伊藤仁斎 子の曰わく、疏食を飯らい、水を飲み、肱を曲げてこれを枕とす。樂しみまた

その中にあり。不義にして富み且つ貴きは、我において浮かべる雲の如し。

荻生徂徠 子曰はく、疏食を飯ひ、水を飲み、肱を曲げて而うして之を枕とす、樂し

みも亦た其の中に在り。不義にして而うして富み且つ貴きは、我に於いて浮雲

の如し」と。

簡野道明 子曰く、疏食を飯ひ、水を飲み、肱を曲げて之を枕とす。樂も亦其の中に

在り。不義にして富み且つ貴きは、我に於て浮雲の如し。

武内義雄 子曰く、疏食を飯ひ、水を飲み、肱を曲げてこれを枕とするも、樂亦その中

に在り。不義にして富みかつ貴きは我に於て浮べる雲の如し。

諸橋轍次 子曰く、疏食を飯ひ水を飲み、肱を曲げて之を枕とす。樂亦其の中に在り。

不義にして富み且つ貴きは、我に於て浮べる雲の如し

宮崎市定 子曰く、疏食を飯ひ水を飲み、肱を曲げてこれを枕とす。樂しみ亦た其の中に

あり。不義にして富み且つ貴きは、我に於て浮雲の如し。

17. 子曰、加我數年、五十以學易、可以無大過矣。

伊藤仁斎 子の曰わく、我に數年を加えて、以つて易えきを學ばば、以つて大いなる過えきなかるべし。

荻生徂徠 子曰はく、我に數年すうねんを加し、五十ごじふにして以て易えきを學ぶ、以て大過たいくわなかる可しと。

諸橋轍次 子曰く、我に數年すうねんを加し、五十ごじふにして以て易えきを學べば、以て大過たいくわなかる可し。

吉川幸次郎 子曰わく、我れに數年すうねんを加え、五十ごじゆうにして以て易えきを學べば、以て大いなる

過あやまち無かる可し。

18. 子所雅言、詩、書、執禮、皆雅言也。

19. 葉公問孔子於子路。子路不對。子曰、女奚不曰、其爲人也、發憤忘食、樂以忘憂、不知老

之將至云爾。

20. 子曰、我非生而知之者。好古、敏以求之者也。

21. 子不語怪、力、亂、神。

伊藤仁斎 子怪・力・亂・神を語らず。

荻生徂徠 子怪・力・亂・神を語せず。

簡野道明

子曰く、怪・力・亂・神を語らず。物怪の事、勇力の事、悖乱の事、此

れ三つの者は或は教化に益なく、或は言ふに忍びざる所、故に聖人謹みて語りたまはず。又鬼神の事は、正しからざるに非ずと雖ども、深遠にして測られず、人智の及ばざる所なり。故に亦語りたまはざるなり。）

武内義雄 子怪力亂神を語らず。

諸橋轍次 子、怪・力・亂・神を語らず。

吉川幸次郎 子は怪力亂神を語らず。

宮崎市定 子、怪・力・亂・神を語らず。孔子は怪奇、暴力、背徳、神秘なことを話題にしなかった。

加地伸行 子は怪力・乱神を語らず。老先生は、怪力や乱神 怪しげな超常現象）についてはお話にならなかった。）

22. 子曰、三人行、必有我師焉、擇其善者而從之、其不善者而改之。

伊藤仁齋 子の曰わく、三人行なえば、必ず我が師あり。その善なる者を擇んでこれに従

い、不善なる者はしかもこれを改む。

荻生徂徠 子曰はく、三人行へば、必ず我が師あり」と、その善なる者を擇んでしか

うして之に従ふ。その不善なる者にしてしかうして之を改む」と。

簡野道明 子曰く、三人行ふときは、必ず我が師あり。其の善なる者を擇びて之に従

ひ、其の不善なる者にして之を改む。

武内義雄 子曰く、我は三人行ふとき必ず我師を得、その善きものを選びて而ち之に従

ひ、その善からざるものは而ち之を改む。

宮崎市定 子曰く、三人行えば、必ず我が師あり。其の善き者を擇んでこれに従い、其の善からざる者にしてはこれを改む。

23. 子曰、天生德於予、桓魋其如予何。

荻生徂徠 子曰はく、天徳を予に生ず、桓魋其れ予を如何せん」と。

諸橋轍次 子曰く、天、徳を予に生せり。桓魋其れ予を如何にせん。

24. 子曰、二三子以我爲隱乎。吾無隱乎爾。吾無行而不與二三子者、是丘也。

荻生徂徠 子曰はく、「二三子我れを以て隠すと爲る乎、吾れ隠すこと無き爾。吾れ行ふ

として二三子と與にせざる者無し、是れ丘なり」と。

諸橋轍次 子曰く、「二三子、我を以て隠すと爲すか。吾、隠すこと無きのみ。吾行ふと

して二三子と與にせざる者無し、是れ丘なり。

吉川幸次郎 子曰く、「二三子、我れを以て隠せりと爲すか。吾れは隠す無きのみ。吾れ行

いて二三子と與にせざる無き者は、是れ丘なり。

25. 子以四教。文、行、忠、信。

荻生徂徠 子四つを以て教ふ、文・行・忠・信。

26. 子曰、聖人、吾不得而見之矣、得見君子者、斯可矣。子曰、善人、吾不得而見之矣、得見有恆者、斯可矣。亡而爲有、虛而爲盈、約而爲泰、難乎有恆矣。

27. 子釣而不綱、弋不射宿。

伊藤仁齋 子釣して綱せず、弋して宿を射ず。

荻生徂徠 子釣して綱せず、弋に宿を射せず。

武内義雄 子釣すれど綱ながしつりせず、弋いるも宿ねを射いず。

諸橋轍次 子は釣つりすれども綱かうせず。弋よくすれども宿ねぐらを射あず。

吉川幸次郎 子、釣つりして綱かうせず。弋よくして宿しゆくを射いず。

加地伸行 子釣ちようして綱かうせず。弋よくして宿しゆくを射いず。

28. 子曰、蓋有不知而作之者、我無是也。多聞、擇其善者而從之、多見而識之、知之次也。

荻生徂徠 子曰しのたまはく、蓋けだし不知ふちにして而しかうして之ものを作る者あり、我これは是れ無し。多く

聞きこえたるが其げんの善えらなる者えらを擇えらんで而えらうして之しに從しふ。多く見みて而みうして之しを識しるは、知ちの次つぎなり」と。

29. 互鄉難與言、童子見、門人惑。子曰、與其進也、不與其退也、唯何甚。人潔己以進、與其潔也。不保其往也。

30. 子曰、仁遠乎哉。我欲仁、斯仁至矣。

荻生徂徠 子曰しのたまはく、仁じん遠とほからんや、我われれ仁ほつを欲ほつすれば、斯ここに仁いた至いたる」と。

諸橋轍次 子曰しいはく、仁じんは遠とほからんや。我われ、仁ほつを欲ほつすれば、斯ここに仁いた至いたる。

31. 陳司敗問昭公知禮乎。孔子曰、知禮。孔子退、揖巫馬期而進之、曰、吾聞君子不黨、君子亦黨乎。君取於吳、爲同姓、謂之吳孟子。君而知禮、孰不知禮。巫馬期以告。子曰、丘也幸、苟有過、人必知之。

32. 子與人歌而善、必使反之、而後和之。

33. 子曰、文、莫吾猶人也。躬行君子、則吾未之有得。

荻生徂徠 子曰はく、文莫せば吾れ猶ほ人のごとしといふも、躬に君子を行ふものを

ば、則ち吾れ未だ之を有ること有らず」と。

諸橋轍次 子曰く、文は吾猶人のごときこと莫からんや。躬、君子を行ふは、則ち吾未

だ之を得ること有らず。

34. 子曰、若聖與仁、則吾豈敢。抑爲之不厭、誨人不倦、則可謂云爾已矣。公西華曰、正唯弟子不能學也。

荻生徂徠 子曰はく、若し聖と仁とは、則ち吾れ豈に敢へてせんや。抑も之を爲して

厭はず、人を誨へて倦まず、則ち云ふこと爾りと謂ふべき已」と。公西華が曰

く、正に唯るも、弟子學ぶこと能はず」と。

35. 子疾病、子路請禱。子曰、有諸。子路對曰、有之、誅曰、禱爾于上下神祇。子曰、丘之禱久矣。

36. 子曰、奢則不孫、儉則固。與其不孫也、寧固。

荻生徂徠 子曰はく、奢るときは則ち不孫なり、儉なるときは則ち固なり。その不孫

ならんよりは寧ろ固ならん」と。

諸橋轍次 子曰く、奢るときは則ち不孫なり。儉なるときは則ち固なり。其の不孫なら

ん興りは、寧ろ固なれ。

37. 子曰、君子坦蕩蕩、小人長戚戚。

伊藤仁齋

子の曰わく、君子は坦たいかにして蕩蕩とうとうたり、小人は長く戚戚せきせきたり。

荻生徂徠

子曰はく、君子は坦蕩蕩たんたうたう、小人は長戚戚ちやうせきせきと。

簡野道明

子曰く、君子は坦くんかにして蕩蕩たうたうたり。小人は長く戚戚せきせきたり。君子は何事も

義理したがに循したがひ、利害得失の私に累わづらはされず、内に省かへりみて疚やましからず。）

武内義雄

子曰く、君子は坦やすくして蕩蕩たうたうたり、小人は長く戚戚せきせきたり。

諸橋轍次

子曰く、君子は坦くんらかに蕩蕩たうたうたり。小人は長せうじんへに戚戚せきせきたり

宮崎市定

子曰く、君子は坦たんとして蕩蕩とうとうたり、小人は悵せうとして戚戚せきせきたり。諸君は無欲で

のんびりとしていてもらいたいものだ。欲求不満しやうきんでよくよしてほしくない。）

加地伸行

子曰く、君子は坦たいたんとして蕩蕩とうとう。小人は長しやうじんたんとして戚戚せきせきたり。教

養人は公平であり、ゆつたりしている。知識人は他者またよりも長まろうとしてこせ

38. 子温而厲、威而不猛、恭而安。

伊藤仁齋

子温はげにして厲はげし。威たけにして猛まうからず。恭きようにして安あんし

荻生徂徠

子温をんにして厲れい、威みにして猛まうならず、恭きようにして安あん。

武内義雄

子は温はげなれども厲はげく、威たけあれども猛まうからず、恭うやうやしけれども安やすし。

諸橋轍次

子は温をんにして厲はげし。威おあつて猛まうからず。恭うやうやしくして安やすし。

加地伸行

子は温なごやかにして厲はげし。

威いありて猛たけからず。

恭つしむあるも安やすし。

泰伯第八

一 子曰、泰伯其可謂至德也已矣。三以天下讓、民無得而稱焉。

二 子曰、恭而無禮則勞、慎而無禮則蕙、勇而無禮則亂、直而無禮則絞。君子篤於親、則民興於仁。故舊不遺、則民不偷。

伊藤仁斎 子の曰わく、恭にして禮なきときは則ち勞す。慎んで禮なきときは則ち蕙す。

勇にして禮なきときは則ち亂す。直にして禮なきときは則ち絞す。君子親に篤ときは、則ち民仁を興る。故舊遺れざるときは、則ち民偷からず。

荻生徂徠 子曰はく、恭にして禮なきときは則ち勞す、慎にして禮なきときは則ち蕙

す、勇にして禮なきときは則ち亂す、直にして禮なきときは則ち絞す」と。

君子親に篤きときは、則ち民仁を興る。故舊遺れざるときは、則ち民偷からず。

武内義雄 子曰く、恭しくして禮なきときは則ち勞へ、慎みて而無禮なきときは則ち蕙

る、勇にして禮なきときは則ち亂し、直にして禮なきときは則ち絞（急）

し。君子親に篤ときは則ち民仁を興（喜）び。故舊遺れざるときは則ち民偷からず。

吉川 子曰わく、恭にして禮なければ則ち勞す。慎にして禮なければ則ち蕙す。勇

にして禮なければ則ち亂る。直にして禮なければ則ち絞。君子、親に篤ければ、則ち民仁に興（おこ）る。故舊遺れざれば、則ち民偷（うす）からず。

3. 曾子有疾、召門弟子曰、啓予足、啓予手。詩云、戰戰兢兢、如臨深淵、如履薄冰。而今而後、吾知免夫。小子。

4. 曾子有疾、孟敬子問之。曾子言曰、鳥之將死、其鳴也哀、人之將死、其言也善。君子所貴乎道者三。動容貌、斯遠暴慢矣。正顏色、斯近信矣。出辭氣、斯遠鄙倍矣。籩豆之事、則有司存。

5. 曾子曰、以能問於不能、以多問於寡、有若無、實若虛、犯而不校。昔者吾友嘗從事於斯矣。

6. 曾子曰、可以託六尺之孤、可以寄百里之命、臨大節、而不可奪也。君子人與、君子人也。

7. 曾子曰、士不可以不弘毅。任重而道遠。仁以爲己任、不亦重乎。死而後已、不亦遠乎。

8. 子曰、興於詩、立於禮、成於樂。

伊藤仁齋 子の曰わく、詩に興る。禮に立つ。樂に成る。

荻生徂徠 子曰はく、詩より興り、禮に立ち、樂に成る」と。

武内義雄 子曰く、詩に興り、禮に立ち、樂に成る。

9. 子曰、民可使由之、不可使知之。

伊藤仁齋 子の曰わく、民はこれに由らしむべし、これを知らしむべからず。

荻生徂徠 子曰はく、民をば之に由らしむべし、之を知らしむべからず」と。

武内義雄 子曰く、民は由らしむべし、知らしむべからず。

諸橋轍次 子曰く、民は之に由らしむ可し。之を知らしむ可からず。

吉川 子曰わく、民は之れに由らしむ可し。之れを知らしむ可からず。

10. 子曰、好勇疾貧、亂也。人而不仁、疾之已甚、亂也。

伊藤仁齋 子の曰わく、勇を好みて貧を疾むは、亂なり。人として不仁なる、これを疾む

こと甚しきは、亂なり。

荻生徂徠

子曰はく、勇を好んで貧を疾むは、亂なり。人として不仁なる、之を疾むこと已甚なるは、亂なり」と。

武内義雄

子曰く、勇を好みて貧を疾むときは亂す、人にして不仁ならば 當に之を風化すべし、若し」之を疾むこと已甚しければ亂せむ。

諸橋轍次

子曰く、勇を好みて貧しきを疾むときは亂す。人にして不仁なるを、之を疾むこと已甚だしきときは亂す。

11. 子曰、如有周公之才之美、使驕且吝、其餘不足觀也已。

荻生徂徠

子曰はく、如し周公の才の美有るも、驕り且つ吝ならしめば、其餘は觀るに足らざらん」と。

武内義雄

子曰く、如し周公の才の美はしきあるも、驕り且吝ならしめば、其餘は觀るに足らざるなり。

12. 子曰、三年學、不至於穀、不易得也。

伊藤仁齋

子の曰わく、三年學んで穀に至らずば、得やすからず。

荻生徂徠

子曰はく、三年にして、學穀に至ざるは、得易からず」と。

武内義雄 子曰く、三年學びて穀こく（禄）に至いた志しざるは得易えやすからざるなり。

諸橋轍次 子曰く、三年學びて、穀こくに至らざるは、得易えやすからず。

吉川 子曰わく、三年學びて、穀こくに至らざるは、得易えやすからざる也なり。

13. 子曰、篤信好學、守死善道。危邦不入、亂邦不居、天下有道則見、無道則隱。邦有道、貧且賤焉、恥也。邦無道、富且貴焉、恥也。

荻生徂徠 子曰はく、篤あつく信じて學を好み、死を善ぜんと道とに守まもるといふ。危邦には入い

らず、亂邦には居らずらんぱうをといふ。天下道有るときは則ち見はれ、道無きとき

は則ち隱かくるといふ。邦道あるときは、貧まつしうして且つ賤せんなるは、恥はぢなり。邦

道なきときに、富とみてかつ貴たつときは、恥はぢなり」と。

武内義雄 子曰く、信に篤くして學を好み、死を守りて道を善よみし、危邦には入らず、亂邦

には居らず、天下道あるときは則ち見れ、道なきときは則ち隱れよ。邦に道

あるとき貧しく且つ賤いやしきは恥はぢなり、邦に道なきとき富み且つ貴きは恥はぢなり。

14. 子曰、不在其位、不謀其政。

伊藤仁斎 子曰わく、その位にあらざれば、その政を謀はからず。

荻生徂徠 子曰はく、其の位に在らざれば、その政まつりことを謀はからず」と。

武内義雄 子曰く、其位にあらざれば其政を謀らず。

15. 子曰、師摯之始、闕雎之亂、洋洋乎盈耳哉。

伊藤仁齋

子の曰わく、師摯ししの始め、關雎かんしよの亂おわり、洋洋乎やうやうことして耳みみに盈みるかな。

荻生徂徠

子曰はく、師摯ししの始はじめ、關雎くわんしよの亂らん、洋洋乎やうやうことして耳みみに盈みてる哉かな」と。

武内義雄

子曰く、師摯ししの關雎かんしよの亂をさを始はじむる、洋洋乎やうやうことして耳みみに盈みるかな。

諸橋轍次

子曰く、師摯ししの始はじめ、關雎くわんしよの亂をさ、洋洋乎やうやうことして耳みみに盈みつるかな。

吉川

子曰わく、師摯ししの始め、關雎かんしよの亂おわりは、洋洋乎やうやうことして耳みみに盈みてる哉かな。

16. 子曰、狂而不直、倜傥而不信、吾不知之矣。

伊藤仁齋

子の曰わく、狂きやうにして直ちよくならず、倜傥とうたうにして愿げんならず、恹恹みんみんとして信まことならず。

吾われこれを知らず。

荻生徂徠

子曰はく、狂きやうにして直ちよくならず、倜傥とうたうにして愿げんならず、恹恹みんみんにして信しんならざる

をば、吾われれ之これを知らず」と。

武内義雄

子曰く、狂きやうしくて直ちよくならず、倜傥おろかにして愿すなほならず、恹恹いやしくして信まことあらざるは、

吾しいはこれを教しふる所以もつとを」知らざるなり。

諸橋轍次

子曰く、狂きやうにして直ちよくならず、倜傥げんにして愿げんならず、恹恹みんみんとして信しんならずんば、

吾われこれ之しを知らず。

加地伸行

子曰く、狂きやうにして直ちよくならず、倜傥とうたうにして愿げんならず、恹恹みんみんにして信しんならずんば、

吾われこれ之しを知らず。

17. 子曰、學如不及、猶恐失之。

伊藤仁斎 子の曰わく、學は及ばざるが如くして、なお失うことを恐る。

荻生徂徠 子曰はく、學ぶことは及ばざるが如くす、猶ほ之を失はんことを恐る」と。

武内義雄 子曰く、學は「逃を追ひて」及ばざるが如するも、猶之を失はむことを恐る。

諸橋轍次 子曰く、學は及ばざるが如くす。猶之を失はんことを恐る。

吉川 子曰わく、學ぶは及ばざるが如くするも、猶お之れを失わんことを恐る。

加地伸行 子曰はく、學は及ばざるが如くせよ。猶之を失わんことを恐れよ。

18. 子曰、巍巍乎、舜禹之有天下也。而不與焉。

伊藤仁斎 子の曰わく、巍巍たるかな、舜・禹の天下を有つや、與えざるが而し。

荻生徂徠 子曰はく、巍巍乎たり舜・禹の天下を有つや、而も與らず」と。

武内義雄 子曰く、巍巍乎たるかな舜禹の天下を有てるや、賢臣に委任して身その事に

あづか
與らず。

諸橋轍次 子曰く、巍巍乎たり、舜・禹の天下を有てるや、而も與からず。

19. 子曰、大哉堯之爲君也。巍巍乎、唯天爲大。唯堯則之。蕩蕩乎、民無能名焉。巍巍乎、其有成功也。煥乎、其有文章。

荻生徂徠 子曰はく、大いなる哉堯の君たるや巍巍乎たり、唯だ天を大いなりとす。唯

だ堯之に則る。蕩蕩乎として民能く名くること無し。巍巍乎として其の成功有

るや、煥乎くわんことして其れ文章有ればなり」と。

武内義雄

子曰く、大なるかな、堯の君たるや、巍巍乎たとして唯天を大なりとなす、唯堯之に則るの、蕩蕩乎なとして民能く名るななし。巍巍乎たとしてそれ成功あり、煥乎としてそれ文章あり。

20.

舜有臣五人、而天下治。武王曰、予有亂臣十人。孔子曰、才難、不其然乎。唐虞之際、於

斯爲盛、有婦人焉、九人而已。三分天下有其二、以服事殷。周之德、其可謂至德也已矣。

21.

子曰、禹吾無間然矣。菲飲食、而致孝乎鬼神、惡衣服、而致美乎黻冕、卑宮室、而盡力乎溝洫。禹吾無間然矣。

伊藤仁斎

子曰わく、禹は吾間然することなし。飲食を菲くして孝を鬼神に至す。衣服を惡くして美を黻冕に至す。宮室を卑しくして、力を溝洫に盡くす。禹は吾間然することなし。

荻生徂徠

子曰はく、禹をば、吾れ間然すること無し。飲食を菲くして孝を鬼神に至し、衣服を惡くして美を黻冕に至し、宮室を卑くして力を溝洫に盡す。禹をば、吾れ間然すること無し」と。

武内義雄

子曰く、禹は吾れこれを間あ（菲）べきなし、飲食を菲くして孝を鬼神に至し、衣服を惡くして美を黻冕に至し、宮室を卑くして力を溝洫に盡くす、禹は吾れこれを間そるべきなし。

諸橋轍次

子曰く、禹は吾間然すること無し。飲食を菲くして孝を鬼神に至し、衣服を惡しくして美を黻冕に至し、宮室を卑しくして力を溝洫に盡くす。禹は吾間然すること無し。

吉川

子曰わく、禹は吾れ間然すること無し。飲食を菲くして、孝を鬼神に至し、衣服を惡しくして、美を黻冕に至し、宮室を卑しくして、力を溝洫に盡くす。禹は吾れ間然すること無し。

子罕第九

1. 子罕言利與命與仁。
2. 達巷黨人曰、大哉孔子、博學而無所成名。子聞之、謂門弟子曰、吾何執。執御乎、執射乎。吾執御矣。
3. 子曰、麻冕、禮也。今也、純儉、吾從衆。拜下、禮也。今拜乎上、泰也。雖違衆、吾從下。
4. 子絕四。毋意、毋必、毋固、毋我。
5. 子畏於匡。曰、文王既沒、文不在茲乎。天之將喪斯文也、後死者不得與於斯文也。天之未喪斯文也、匡人其如予何。
6. 大宰問於子貢曰、夫子聖者與、何其多能也。子貢曰、固天縱之將聖、又多能也。子聞之曰、大宰知我乎。吾少也賤、故多能鄙事。君子多乎哉。不多也。
7. 牢曰、子云、吾不試、故藝。
8. 子曰、吾有知乎哉。無知也。有鄙夫問於我、空空如也、我叩其兩端而竭焉。
9. 子曰、鳳鳥不至、河不出圖、吾已矣夫。
10. 子見齊衰者冕衣裳者與瞽者、見之雖少必作、過之必趨。
11. 顏淵喟然歎曰、仰之彌高、鑽之彌堅。瞻之在前、忽焉在後。夫子循循然善誘人。博我以文、約我以禮。欲罷不能、既竭吾才。如有所立卓爾。雖欲從之、末由也已。
12. 子疾病、子路使門人爲臣。病間、曰、久矣哉、由之行詐也。無臣而爲有臣、吾誰欺、欺天乎。且予與其死於臣之手也、無寧死於二三子之手乎。且予縱不得大葬、予死於道路乎。
13. 子貢曰、有美玉於斯、韞匱而藏諸。求善賈而沽諸。子曰、沽之哉、沽之哉。我待賈者也。
14. 子欲居九夷。或曰、陋、如之何。子曰、君子居之、何陋之有。
15. 子曰、吾自衛反魯、然後樂正、雅頌各得其所。

16. 子曰、出則事公卿、入則事父兄、喪事不敢不勉、不爲酒困、何有於我哉。
17. 子在川上曰、逝者如斯夫。不舍晝夜。
18. 子曰、吾未見好德如好色者也。
19. 子曰、譬如爲山、未成一簣、止吾止也。譬如平地、雖覆一簣、進吾往也。
20. 子曰、語之而不惰者、其回也與。
21. 子謂顏淵曰、惜乎、吾見其進也、吾未見其止也。
22. 子曰、苗而不秀者有矣夫。秀而不實者有矣夫。
23. 子曰、後生可畏、焉知來者之不如今也。四十五十而無聞焉、斯亦不足畏也已。
24. 子曰、法語之言、能無從乎。改之爲貴。巽與之言、能無說乎。繹之爲貴。說而不繹、從而不改、吾末如之何也已矣。
25. 子曰、主忠信。毋友不如己者。過則勿憚改。
26. 子曰、三軍可奪帥也、匹夫不可奪志也。
27. 子曰、衣敝緼袍、與衣狐貉者立而不恥者、其由也與。不伎不求、何用不臧。子路終身誦之。
- 子曰、是道也、何足以臧。
28. 子曰、歲寒、然後知松柏之後彫也。
29. 子曰、知者不惑、仁者不憂、勇者不懼。
30. 子曰、可與共學、未可與適道。可與適道、未可與立。可與立、未可與權。唐棣之華、偏其反而、豈不爾思。室是遠而。子曰、未之思也、未何遠之有。

鄉黨第十

1. 孔子於鄉黨、恂恂如也、似不能言者。其在宗廟朝廷、便便言、唯謹爾。朝與下大夫言、侃侃如也。與上大夫言、誾誾如也。君在、蹐蹐如也、與與如也。
2. 君召使摯、色勃如也、足躩如也。揖所與立、左右手、衣前後、檐如也。趨進、翼如也。賓退、必復命曰、賓不顧矣。
3. 入公門、鞠躬如也、如不容。立不中門、行不履闕。過位、色勃如也、足躩如也。其言似不足者。攝齊升堂、鞠躬如也、屏氣似不息者。出降一等、逞顏色怡怡如也。沒階趨進、翼如也。復其位、蹐蹐如也。
4. 執圭、鞠躬如也、如不勝。上如揖、下如授、勃如戰色。足踏踏如有循。享禮、有容色、私覲、愉愉如也。
5. 君子不以紺緌飾。紅紫不以爲褻服。當暑、袗絺綌、必表而出之。緇衣羔裘、素衣麕裘、黃衣狐裘。褻裘長、短右袂。必有寢衣、長一身有半。狐貉之厚以居。去喪無所不佩。非帷裳、必殺之。羔裘玄冠、不以弔。吉月、必朝服而朝。齊、必有明衣布。
6. 齊必變食、居必遷坐。食不厭精、膾不厭細。食饁而餽、魚餒而肉敗、不食。色惡不食。臭惡不食。失飪不食。不時不食。割不正不食。不得其醬不食。肉雖多、不使勝食氣、唯酒無量、不及亂。沽酒市脯不食。不撤薑食、不多食。祭於公、不宿肉。祭肉不出三日、出三日不食之矣。食不語、寢不言。雖蔬食菜羹瓜、祭必齊如也。
7. 席不正不坐。鄉人飲酒、杖者出、斯出矣。
8. 鄉人儺、朝服而立於阼階。
9. 問人於他邦、再拜而送之。
10. 康子饋藥、拜而受之、曰、丘未達、不敢嘗。

11. 廋焚、子退朝曰、傷人乎。不問馬。
12. 君賜食、必正席先嘗之。君賜腥、必熟而薦之。君賜生、必畜之。侍食於君、君祭、先飯。
13. 疾、君視之、東首加朝服拖紳。
14. 君命召、不俟駕行矣。
15. 入太廟、每事問。
16. 朋友死、無所歸、曰、於我殯。
17. 朋友之饋、雖車馬、非祭肉不拜。
18. 寢不尸、居不容。
19. 見齊衰者、雖狎必變。見冕者與瞽者、雖褻必以貌。凶服者式之。式負版者。有盛饌、必變色而作。迅雷風烈必變。
20. 升車、必正立、執綏。車中不內顧、不疾言、不親指。
21. 色斯舉矣、翔而後集。
22. 曰、山梁雌雉、時哉時哉。子路共之、三嗅而作。

先進第十一

1. 子曰、先進於禮樂、野人也、後進於禮樂、君子也。如用之、則吾從先進。
2. 子曰、從我於陳蔡者、皆不及門也。
3. 德行、顏淵、閔子騫、冉伯牛、仲弓。言語、宰我、子貢。政事、冉有、季路。文學、子游、子夏。
4. 子曰、回也、非助我者也。於吾言、無所不說。
5. 子曰、孝哉閔子騫。人不問於其父母昆弟之言。
6. 南容三復白圭。孔子以其兄之子妻之。
7. 季康子問、弟子孰爲好學。孔子對曰、有顏回者好學、不幸短命死矣。今也則亡。
8. 顏淵死、顏路請子之車以爲之椁。子曰、才不才、亦各言其子也。鯉也死、有棺而無椁、吾不徒行以爲之椁。以吾從大夫之後、不可徒行也。
9. 顏淵死、子曰、噫、天喪予、天喪予。
10. 顏淵死、子哭之、慟。從者曰、子慟矣。曰、有慟乎、非夫人之爲慟而誰爲。
11. 顏淵死、門人欲厚葬之。子曰、不可。門人厚葬之。子曰、回也、視予猶父也、予不得視猶子也。非我也、夫二三子也。
12. 季路問事鬼神。子曰、未能事人、焉能事鬼。曰、敢問死。曰、未知生、焉知死。
13. 閔子侍側、閭閻如也、子路、行行如也。冉有、子貢、侃侃如也。子樂。若由也、不得其死然。
14. 魯人爲長府。閔子騫曰、仍舊貫如之何。何必改作。子曰、夫人不言、言必有中。
15. 子曰、由之瑟、奚爲於丘之門。門人不敬子路。子曰、由也升堂矣、未入於室也。
16. 子貢問、師與商也孰賢。子曰、師也過、商也不及。曰、然則師愈與。子曰、過猶不及。

17. 季氏富於周公、而求也爲之聚斂而附益之。子曰、非吾徒也、小子鳴鼓而攻之可也。
18. 柴也愚、參也魯、師也辟、由也喭。子曰、回也其庶乎、屢空。賜不受命而貨殖焉、億則屢中。
19. 子張問善人之道。子曰、不踐迹、亦不入於室。子曰、論篤是與、君子者乎、色莊者乎。
20. 子路問、聞斯行諸。子曰、有父兄在、如之何其聞斯行之。冉有問、聞斯行諸。子曰、聞斯行之。公西華曰、由也問聞斯行諸、子曰、有父兄在、求也問、聞斯行諸、子曰、聞斯行之。亦惑、敢問。子曰、求也退、故進之、由也兼人、故退之。
21. 子畏於匡、顏淵後。子曰、吾以女爲死矣。曰、子在、回何敢死。
22. 季子然問、仲由、冉求、可謂大臣與。子曰、吾以子爲異之問。曾由與求之問。所謂大臣者、以道事君、不可則止、今由與求也、可謂具臣矣。曰、然則從之者與。子曰、弑父與君、亦不從也。
23. 子路使子羔爲費宰。子曰、賊夫人之子。子路曰、有民人焉。有社稷焉、何必讀書然後爲學。子曰、是故惡夫佞者。
24. 子路、曾皙、冉有、公西華侍坐。子曰、以吾一日長乎爾、毋吾以也。居則曰、不吾知也。如或知爾、則何以哉。子路率爾而對、曰、千乘之國、攝乎大國之間、加之以師旅、因之以饑饉、由也爲之、比及三年、可使有勇、且知方也。夫子哂之。求、爾何如。對曰、方六七十、如五六十、求也爲之、比及三年、可使足民、如其禮樂、以俟君子。赤、爾何如。對曰、非曰能之、願學焉。宗廟之事、如會同、端章甫、願爲小相焉。點、爾何如。鼓瑟希、鏗爾、舍瑟而作。對曰、異乎 三子者之撰。子曰、何傷乎。亦各言其志也。曰、莫春者、春服既成、冠者五六人、童子六七人、浴乎沂、風乎舞雩、詠而歸。夫子喟然歎曰、吾與點也。三子者出、曾皙後。曾皙曰、夫三子者之言何如。子曰、亦各言其志也已矣。曰、夫

子何哂由也。曰、爲國以禮、其言不讓、是故哂之。唯求則非邦也與。安見方六七十、如五六十、而非邦也者。唯赤則邦也與。宗廟會同、非諸侯而何。赤也爲之小、孰能爲之大。

顏淵第十二

1. 顏淵問仁。子曰、克己復禮爲仁。一日克己復禮、天下歸仁焉。爲仁由己、而由人乎哉。顏淵曰、請問其目。子曰、非禮勿視、非禮勿聽、非禮勿言、非禮勿動。顏淵曰、回雖不敏、請事斯語矣。
2. 仲弓問仁。子曰、出門如見大賓、使民如承大祭、己所不欲、勿施於人、在邦無怨、在家無怨。仲弓曰、雍雖不敏、請事斯語矣。
3. 司馬牛問仁。子曰、仁者、其言也訕。曰、其言也訕、斯謂之仁已乎。子曰、爲之難、言之得無訕乎。
4. 司馬牛問君子。子曰、君子不憂不懼。曰、不憂不懼、斯謂之君子已乎。子曰、內省不疚、夫何憂何懼。
5. 司馬牛憂曰、人皆有兄弟、我獨亡。子夏曰、商聞之矣、死生有命、富貴在天。君子敬而無失、與人恭而有禮、四海之內、皆兄弟也。君子何患乎無兄弟也。
6. 子張問明。子曰、浸潤之譖、膚受之愬、不行焉、可謂明也已矣。浸潤之譖、膚受之愬、不行焉、可謂遠也已矣。
7. 子貢問政。子曰、足食、足兵、民信之矣。子貢曰、必不得已而去、於斯三者何先。曰、去兵。子貢曰、必不得已而去、於斯二者何先。曰、去食、自古皆有死、民無信不立。
8. 棘子成曰、君子質而已矣、何以文爲。子貢曰、惜乎、夫子之說君子也、駟不及舌。文猶質也、質猶文也、虎豹之鞬、猶犬羊之鞬。
9. 哀公問於有若曰、年饑用不足、如之何。有若對曰、盍徹乎。曰、二吾猶不足、如之何其徹也。對曰、百姓足、君孰與不足。百姓不足、君孰與足。
10. 子張問崇德、解惑。子曰、主忠信、徙義崇德也。愛之欲其生、惡之欲其死、既欲其生又欲

其死、是惑也。誠不以富、亦祇以異。

11. 齊景公問政於孔子。孔子對曰、君君、臣臣、父父、子子。公曰、善哉、信如君不君、臣不

臣、父不父、子不子、雖有粟、吾得而食諸。

12. 子曰、片言可以折獄者、其由也與。子路無宿諾。

13. 子曰、聽訟、吾猶人也。必也使無訟乎。

14. 子張問政。子曰、居之無倦、行之以忠。

15. 子曰、博學於文、約之以禮、亦可以弗畔矣夫。

16. 子曰、君子成人之美、不成人之惡。小人反是。

17. 季康子問政於孔子、孔子對曰、政者正也。子帥以正、孰敢不正。

18. 季康子患盜、問於孔子。孔子對曰、苟子之不欲、雖賞之不竊。

19. 季康子問政於孔子曰、如殺無道以就有道、何如。孔子對曰、子爲政、焉用殺。子欲善而民

善矣。君子之德風、小人之德草、草上之風必偃。

20. 子張問、士何如斯可謂之達矣。子曰、何哉、爾所謂達者。子張對曰、在邦必聞、在家必聞。

子曰、是聞也、非達也。夫達也者、質直而好義、察言而觀色、慮以下人、在邦必達、在家

必達。夫聞也者、色取仁而行違、居之不疑、在邦必聞、在家必聞。

21. 樊遲從遊於舞雩之下。曰、敢問崇德、脩慝、辨惑。子曰、善哉問。先事後得、非崇德與。

攻其惡、無攻人之惡、非脩慝與。一朝之忿、忘其身以及其親、非惑與。

22. 樊遲問仁。子曰、愛人。問知。子曰、知人。樊遲未達。子曰、舉直錯諸枉、能使枉者直。

樊遲退、見子夏曰、鄉也、吾見於夫子而問知、子曰、舉直錯諸枉、能使枉者直。何謂也。

子夏曰、富哉言乎。舜有天下、選於衆、舉皋陶、不仁者遠矣、湯有天下、選於衆、舉伊尹、

不仁者遠矣。

23. 子貢問友。子曰、忠告而善道之、不可則止、毋自辱焉。

24. 曾子曰、君子以文會友、以友輔仁。

子路第十三

1. 子路問政。子曰、先之勞之。請益。曰、無倦。
2. 仲弓爲季氏宰、問政。子曰、先有司、赦小過、舉賢才。曰、焉知賢才而舉之。曰、舉爾所知、爾所不知、人其舍諸。
3. 子路曰、衛君待子而爲政、子將奚先。子曰、必也正名乎。子路曰、有是哉、子之迂也、奚其正。子曰、野哉、由也。君子於其所不知、蓋闕如也。名不正則言不順、言不順則事不成、事不成則禮樂不興、禮樂不興則刑罰不中、刑罰不中則民無所措手足。故君子名之必可言也、言之必可行也。君子於其言、無所苟而已矣。
4. 樊遲請學稼、子曰、吾不如老農。請學爲圃、曰、吾不如老圃。樊遲出、子曰、小人哉、樊須也。上好禮、則民莫敢不敬、上好義、則民莫敢不服、上好信、則民莫敢不用情。夫如是、則四方之民、襁負其子而至矣、焉用稼。
5. 子曰、誦詩三百、授之以政不達、使於四方不能專對、雖多、亦奚以爲。
6. 子曰、其身正、不令而行、其身不正、雖令不從。
7. 子曰、魯衛之政、兄弟也。
8. 子謂衛公子蒯、善居屋、始有曰苟合矣、少有曰苟完矣、富有曰苟美矣。
9. 子適衛、冉有僕。子曰、庶矣哉。冉有曰、既庶矣又何加焉。曰、富之。曰、既富矣又何加焉。曰、教之。
10. 子曰、苟有用我者、期月而已可也、三年有成。
11. 子曰、善人爲邦百年、亦可以勝殘去殺矣。誠哉是言也。
12. 子曰、如有王者、必世而後仁。
13. 子曰、苟正其身矣、於從政乎何有。不能正其身、如正人何。

14. 冉子退朝、子曰、何晏也。對曰、有政。子曰、其事也、如有政、雖不吾以、吾其與聞之。
15. 定公問、一言而可以興邦、有諸。孔子對曰、言不可以若是其幾也。人之言曰、爲君難、爲臣不易。如知爲君之難也、不幾乎一言而興邦乎。曰、一言而喪邦、有諸。孔子對曰、言不可以若是其幾也。人之言曰、予無樂乎爲君、唯其言而莫予違也。如其善而莫之違也、不亦善乎。如不善而莫之違也、不幾乎一言而喪邦乎。

16. 葉公問政。子曰、近者說、遠者來。

17. 子夏爲莒父宰、問政。子曰、無欲速、無見小利。欲速則不達、見小利大事不成。按「大事」當作「則大事」。

18. 葉公語孔子曰、吾黨有直躬者、其父攘羊而子證之。孔子曰、吾黨之直者異於是、父爲子隱、子爲父隱、直在其中矣。

19. 樊遲問仁。子曰、居處恭、執事敬、與人忠、雖之夷狄、不可棄也。

20. 子貢問曰、何如斯可謂之士矣。子曰、行己有恥、使於四方不辱君命、可謂士矣。曰、敢問其次。曰、宗族稱孝焉、鄉黨稱弟焉。曰、敢問其次。曰、言必信、行必果、硜硜然小人哉、抑亦可以爲次矣。曰、今之從政者何如。子曰、噫、斗筭之人、何足算也。

21. 子曰、不得中行而與之、必也狂狷乎。狂者進取、狷者有所不爲也。

22. 子曰、南人有言曰、人而無恆、不可以作巫医。善夫。不恆其德、或承之羞、子曰、不占而巳矣。

23. 子曰、君子和而不同、小人同而不和。

簡野道明 のたまは 子曰く、君子は和して同せず。小人は同じて和せず。

武内義雄 くわ 子曰く、君子は和して同せず、小人は同じて和せず。

宮崎市定 どう 子曰く、君子は和して同せず、小人は同じて和せず。諸君は互いに仲良くし

てもらいたいが雷同してもらいたくない。大ぜい集ればすぐ雷同するが、必要な時に協力できぬ人間の多いのは困りものだ。）

24. 子貢問曰、郷人皆好之、何如。子曰、未可也。郷人皆惡之、何如。子曰、未可也。不如郷人之善者好之、其不善者惡之。

25. 子曰、君子易事而難說也。說之不以道、不說也。及其使人也、器之。小人難事而易說也。說之雖不以道、說也。及其使人也、求備焉。

26. 子曰、君子泰而不驕、小人驕而不泰。

27. 子曰、剛毅木訥、近仁。

簡野道明 のたまは 子曰く、剛毅木訥は仁に近し。がうきぼくとつ じん ちか 大の意思堅固にして私欲に屈せず、強忍にして果敢の氣象あり、容貌質樸にして文飾なく、言語遲鈍にして佞ならざる者は、仁の道に近しと為すと。）

武内義雄 のたまは 子曰く、剛 無欲と毅 果敢と木 質樸と訥 遲鈍とは仁に近し。ざんじんたみ をし 子曰く、剛、毅、木、訥なるは仁に近し。かたい背骨がとおりと、粘り腰がつよく、田舎風まるだしで、口数の少いのは、そのまま仁に通ずるものがある。）

28. 子路問曰、何如斯可謂之士矣。子曰、切切偲偲怡怡如也、可謂士矣。朋友切切偲偲、兄弟怡怡。

29. 子曰、善人教民七年、亦可以即戎矣。

簡野道明 のたまは 子曰く、善人民を教ふること七年ならば、亦以て戎に即かしむ可し。ぜんじんたみ をし じゅう

武内義雄 子曰く、善人民を教ふる七年ならば亦以て戎に即かしむべし。いんご じゅう

宮崎市定 子曰く、善人が民を教うることに七年ならば、亦た以て戎に即かしむべし。善

意の人が人民を指導すること七年にもなれば、戦争につれて行ってもぶざまな結果にならない。）

30. 子曰、以不教民戰、是謂棄之。

簡野道明 子曰く、教のたまはへざる民を以て戦ふは、是れ之を棄つと謂ふ。

武内義雄 子曰く、教をへざる民を以て戦はしむる、是れ之を棄つといふ。

宮崎市定 子曰く、教へざるの民を以て戦う。是れ、これを棄つと謂うなり。

憲問第十四

1. 憲問恥。子曰、邦有道穀、邦無道穀、恥也。克伐怨欲、不行焉、可以爲仁矣。子曰、可以爲難矣、仁則吾不知也。
2. 子曰、士而懷居、不足以爲士矣。
3. 子曰、邦有道、危言、危行。邦無道、危行、言孫。
4. 子曰、有德者必有言、有言者不必有德。仁者必有勇、勇者不必有仁。
5. 南宮适問於孔子曰、羿善射、鬲盪舟、俱不得其死然。禹稷躬稼而有天下。夫子不答。南宮适出。子曰、君子哉若人、尚德哉若人。
6. 子曰、君子而不仁者有矣夫、未有小人而仁者也。
7. 子曰、愛之、能勿勞乎。忠焉、能勿誨乎。
8. 子曰、爲命、裨諶草創之、世叔討論之、行人子羽脩飾之、東里子產潤色之。
9. 或問子產。子曰、惠人也。問子西。曰、彼哉、彼哉。問管仲。曰、人也、奪伯氏駢邑三百、飯疏食、沒齒無怨言。
10. 子曰、貧而無怨、難、富而無驕、易。
11. 子曰、孟公綽、爲趙魏老則優、不可以爲滕薛大夫。
12. 子路問成人。子曰、若臧武仲之知、公綽之不欲、卞莊子之勇、冉求之藝、文之以禮樂、亦可以爲成人矣。曰、今之成人者、何必然。見利思義、見危授命、久要不忘平生之言、亦可以爲成人矣。
13. 子問公叔文子於公明賈、曰、信乎。夫子不言不笑不取乎。公明賈對曰、以告者過也、夫子時然後言、人不厭其言、樂然後笑、人不厭其笑、義然後取、人不厭其取。子曰、其然、豈其然乎。

14. 子曰、臧武仲以防求爲後於魯。雖曰不要君、吾不信也。
15. 子曰、晉文公譎而不正、齊桓公正而不譎。
16. 子路曰、桓公殺公子糾、召忽死之、管仲不死、曰未仁乎。子曰、桓公九合諸侯、不以兵車、管仲之力也。如其仁。如其仁。
17. 子貢曰、管仲非仁者與。桓公殺公子糾、不能死、又相之。子曰、管仲相桓公、霸諸侯、一匡天下、民到于今受其賜。微管仲、吾其被髮左衽矣。豈若匹夫匹婦之爲諒也、自經於溝瀆而莫之知也。
18. 公叔文子之臣大夫僎、與文子同升諸公。子聞之曰、可以爲文矣。
19. 子言衛靈公之無道也。康子曰、夫如是、奚而不喪。孔子曰、仲叔圉治賓客、祝鮀治宗廟、王孫賈治軍旅、夫如是、奚其喪。
20. 子曰、其言之不作、則爲之也難。
21. 陳成子弑簡公。孔子沐浴而朝、告於哀公曰、陳恆弑其君、請討之。公曰、告夫三子。孔子曰、以吾從大夫之後、不敢不告也。君曰、告夫三子者。之三子告、不可。孔子曰、以吾從大夫之後、不敢不告也。
22. 子路問事君。子曰、勿欺也、而犯之。
23. 子曰、君子上達、小人下達。
24. 子曰、古之學者爲己、今之學者爲人。
25. 蘧伯玉使人於孔子。孔子與之坐而問焉。曰、夫子何爲。對曰、夫子欲寡其過而未能也。使者出。子曰、使乎、使乎。
26. 子曰、不在其位、不謀其政。曾子曰、君子思不出其位。
27. 子曰、君子恥其言而過其行。

28. 子曰、君子道者三、我無能焉、仁者不憂、知者不惑、勇者不懼。子貢曰、夫子自道也。
29. 子貢方人。子曰、賜也賢乎哉、夫我則不暇。
30. 子曰、不患人之不己知、患其不能也。
31. 子曰、不逆詐、不億不信。抑亦先覺者、是賢乎。
32. 微生畝謂孔子曰、丘何爲是栖栖者與、無乃爲佞乎。孔子曰、非敢爲佞也、疾固也。
33. 子曰、驥不稱其力、稱其德也。
34. 或曰、以德報怨、何如。子曰、何以報德。以直報怨、以德報德。
35. 子曰、莫我知也夫。子貢曰、何爲其莫知子也。子曰、不怨天、不尤人、下學而上達。知我者其天乎。
36. 公伯寮愬子路於季孫。子服景伯以告曰、夫子固有惑志於公伯寮、吾力猶能肆諸市朝。子曰、道之將行也與、命也。道之將廢也與、命也。公伯寮其如命何。
37. 子曰、賢者辟世、其次辟地、其次辟色、其次辟言。子曰、作者七人矣。
38. 子路宿於石門。晨門曰、奚自。子路曰、自孔氏。曰、是知其不可而爲之者與。
39. 子擊磬於衛。有荷蕢而過孔氏之門者、曰、有心哉、擊磬乎。既而曰、鄙哉、硜硜乎。莫己知也、斯已而已矣。深則厲、淺則揭。子曰、果哉、末之難矣。
40. 子張曰、書云、高宗諒陰三年不言、何謂也。子曰、何必高宗、古之人皆然。君薨、百官總己以聽於冢宰、三年。
41. 子曰、上好禮、則民易使也。
42. 子路問君子。子曰、脩己以敬。曰、如斯而已乎。曰、脩己以安人。曰、如斯而已乎。曰、脩己以安百姓。脩己以安百姓、堯舜其猶病諸。
43. 原壤夷俟。子曰、幼而不孫弟、長而無述焉、老而不死、是爲賊。以杖叩其脛。

闕黨童子將命。或問之曰、益者與。子曰、吾見其居於位也、見其與先生並行也、非求益者也、欲速成者也。

衛靈公第十五

1. 衛靈公問陳於孔子。孔子對曰、俎豆之事、則嘗聞之矣、軍旅之事、未之學也。
2. 明日遂行。在陳絕糧。從者病、莫能興。子路愠見曰、君子亦有窮乎。子曰、君子固窮、小人窮斯濫矣。
3. 子曰、賜也、女以予爲多學而識之者與。對曰、然、非與。曰、非也。予一以貫之。
4. 子曰、由、知德者鮮矣。
5. 子曰、無爲而治者、其舜也與。夫何爲哉。恭己正南面而已矣。
6. 子張問行。子曰、言忠信、行篤敬、雖蠻貊之邦行矣。言不忠信、行不篤敬、雖州里行乎哉。立則見其參於前也、在輿則見其倚於衡也。夫然後行。子張書諸紳。
7. 子曰、直哉史魚。邦有道如矢、邦無道如矢。君子哉蘧伯玉。邦有道則仕、邦無道則可卷而懷之。
8. 子曰、可與言而不與之言、失人。不可與言而與之言、失言。知者不失人、亦不失言。
9. 子曰、志士仁人、無求生以害仁、有殺身以成仁。
10. 子貢問爲仁。子曰、工欲善其事、必先利其器。居是邦也、事其大夫之賢者、友其士之仁者。
11. 顏淵問爲邦。子曰、行夏之時、乘殷之輅、服周之冕、樂則韶舞。放鄭聲、遠佞人。鄭聲淫、佞人殆。
12. 子曰、人無遠慮、必有近憂。
13. 子曰、已矣乎。吾未見好德如好色者也。
14. 子曰、臧文仲、其竊位者與。知柳下惠之賢而不與立也。
15. 子曰、躬自厚而薄責於人、則遠怨矣。
16. 子曰、不曰如之何如之何者、吾未如之何也已矣。

17. 子曰、羣居終日、言不及義、好行小慧、難矣哉。
18. 子曰、君子義以爲質、禮以行之、孫以出之、信以成之、君子哉。
19. 子曰、君子病無能焉、不病人之不已知也。
20. 子曰、君子疾沒世而名不稱焉。
21. 子曰、君子求諸己、小人求諸人。
22. 子曰、君子矜而不爭、羣而不黨。
23. 子曰、君子不以言舉人、不以人廢言。
24. 子貢問曰、有一言而可以終身行之者乎。子曰、其恕乎。己所不欲、勿施於人。
25. 子曰、吾之於人也、誰毀誰譽。如有所譽者、其有所試矣。斯民也、三代之所以直道而行也。
26. 子曰、吾猶及史之闕文也、有馬者、借人乘之、今亡矣夫。
27. 子曰、巧言亂德。小不忍則亂大謀。
28. 子曰、衆惡之、必察焉。衆好之、必察焉。
29. 子曰、人能弘道、非道弘人。
30. 子曰、過而不改、是謂過矣。
31. 子曰、吾嘗終日不食、終夜不寢、以思、無益。不如學也。
32. 子曰、君子謀道、不謀食。耕也、餒在其中矣。學也、祿在其中矣。君子憂道、不憂貧。
33. 子曰、知及之、仁不能守之、雖得之、必失之。知及之、仁能守之、不莊以涖之、則民不敬。知及之、仁能守之、莊以涖之、動之以禮、未善也。
34. 子曰、君子不可小知、而可大受也。小人不可大受、而可小知也。
35. 子曰、民之於仁也、甚於水火。水火、吾見蹈而死者矣、未見蹈仁而死者也。
36. 子曰、當仁、不讓於師。

37. 子曰、君子貞而不諒。
38. 子曰、事君敬其事而後其食。
39. 子曰、有教無類。
40. 子曰、道不同、不相爲謀。
41. 子曰、辭、達而已矣。
42. 師冕見。及階、子曰、階也。及席、子曰、席也。皆坐、子告之曰、某在斯、某在斯。師冕出。子張問曰、與師言之道與。子曰、然、固相師之道也。

季氏第十六

1. 季氏將伐顓臾。冉有季路見於孔子曰、季氏將有事於顓臾。孔子曰、求、無乃爾是過與。夫顓臾、昔者先王以爲東蒙主、且在邦域之中矣、是社稷之臣也、何以伐爲。冉有曰、夫子欲之、吾二臣者、皆不欲也。孔子曰、求、周任有言曰、陳力就列、不能者止。危而不持、顛而不扶、則將焉用彼相矣。且爾言過矣。虎兕出於柙、龜玉毀於櫝中、是誰之過與。冉有曰、今夫顓臾、固而近於費、今不取、後世必爲子孫憂。孔子曰、求、君子疾夫舍曰欲之而必爲之辭。丘也聞、有國有家者、不患寡而患不均、不患貧而患不安。蓋均無貧、和無寡、安無傾。夫如是、故遠人不服、則脩文德以來之。既來之、則安之。今由與求也、相夫子、遠人不服而不能來也、邦分崩離析、而不能守也、而謀動干戈於邦內、吾恐季孫之憂不在顓臾、而在蕭牆之內也。

2. 孔子曰、天下有道、則禮樂征伐自天子出、天下無道、則禮樂征伐自諸侯出。自諸侯出、蓋十世希不失矣。自大夫出、五世希不失矣。陪臣執國命、三世希不失矣。天下有道、則政不在大夫。天下有道、則庶人不議。

3. 孔子曰、祿之去公室五世矣、政逮於大夫四世矣。故夫三桓之子孫微矣。

4. 孔子曰、益者三友、損者三友。友直、友諒、友多聞、益矣。友便辟、友善柔、友便佞、損矣。

5. 孔子曰、益者三樂、損者三樂。樂節禮樂、樂道人之善、樂多賢友、益矣。樂驕樂、樂佚遊、樂宴樂、損矣。

6. 孔子曰、侍於君子有三愆。言未及之而言、謂之躁。言及之而不言、謂之隱。未見顏色而言、謂之瞽。

7. 孔子曰、君子有三戒。少之時、血氣未定、戒之在色。及其壯也、血氣方剛、戒之在鬪。及

其老也、血氣既衰、戒之在得。

8. 孔子曰、君子有三畏。畏天命、畏大人、畏聖人之言。小人不知天命而不畏也、狎大人、侮聖人之言。

9. 孔子曰、生而知之者、上也。學而知之者、次也。困而學之、又其次也。困而不學、民斯爲下矣。

10. 孔子曰、君子有九思、視思明、聽思聰、色思溫、貌思恭、言思忠、事思敬、疑思問、忿思難、見得思義。

11. 孔子曰、見善如不及、見不善如探湯。吾見其人矣、吾聞其語矣。隱居以求其志、行義以達其道。吾聞其語矣、未見其人也。

12. 齊景公有馬千駟、死之日、民無德而稱焉、伯夷叔齊餓於首陽之下、民到于今稱之。其斯之謂與。

13. 陳亢問於伯魚曰、子亦有異聞乎。對曰、未也。嘗獨立、鯉趨而過庭。曰、學詩乎。對曰、未也。不學詩、無以言。鯉退而學詩。他日又獨立、鯉趨而過庭。曰、學禮乎。對曰、未也。不學禮、無以立。鯉退而學禮。聞斯二者。陳亢退而喜曰、問一得三、聞詩、聞禮、又聞君子遠其子也。

14. 邦君之妻、君稱之曰夫人、夫人自稱小童、邦人稱之曰君夫人、稱諸異邦曰寡小君、異邦人稱之、亦曰君夫人。

陽貨第十七

1. 陽貨欲見孔子，孔子不見，歸孔子豚。孔子時其亡也，而往拜之。遇諸塗。謂孔子曰：來。予與爾言。曰：懷其寶而迷其邦，可謂仁乎。曰：不可。好從事而亟失時，可謂知乎。曰：不可。日月逝矣，歲不我與。孔子曰：諾，吾將仕矣。
2. 子曰：性相近也，習相遠也。子曰：唯上知與下愚不移。
3. 子之武城，聞弦歌之聲，夫子莞爾而笑曰：割雞焉用牛刀。子游對曰：昔者，偃也聞諸夫子，曰：君子學道則愛人，小人學道則易使也。子曰：二三子，偃之言是也，前言戲之耳。
4. 公山弗擾以費畔，召，子欲往。子路不說曰：末之也已，何必公山氏之之也。子曰：夫召我者，而豈徒哉。如有用我者，吾其爲東周乎。
5. 子張問仁於孔子。孔子曰：能行五者於天下爲仁矣。請問之。曰：恭寬信敏惠。恭則不侮，寬則得衆，信則人任焉，敏則有功，惠則足以使人。
6. 佛肸召，子欲往。子路曰：昔者由也聞諸夫子，曰：親於其身爲不善者，君子不入也。佛肸以中牟畔，子之往也如之何。子曰：然，有是言也。不曰堅乎，磨而不磷，不曰白乎。涅而不緇。吾豈匏瓜也哉，焉能繫而不食。
7. 子曰：由也，女聞六言六蔽矣乎。對曰：未也。居，吾語女。好仁不好學，其蔽也愚；好知不好學，其蔽也蕩；好信不好學，其蔽也賊；好直不好學，其蔽也絞；好勇不好學，其蔽也亂；好剛不好學，其蔽也狂。
8. 子曰：小子，何莫學夫詩。詩可以興，可以觀，可以羣，可以怨，邇之事父，遠之事君，多識於鳥獸草木之名。子謂伯魚曰：女爲周南召南矣乎。人而不爲周南召南，其猶正牆面而立也與。
9. 子曰：禮云禮云，玉帛云乎哉。樂云樂云，鍾鼓云乎哉。

10. 子曰、色厲而內荏、譬諸小人、其猶穿窬之盜也與。

11. 子曰、鄉原、德之賊也。

12. 子曰、道聽而塗說、德之棄也。

13. 子曰、鄙夫可與事君也與哉。其未得之也、患得之。既得之、患失之。苟患失之、無所不至矣。

14. 子曰、古者民有三疾、今也或是之亡也。古之狂也肆、今之狂也蕩、古之矜也廉、今之矜也忿戾、古之愚也直、今之愚也詐而已矣。

15. 子曰、巧言令色、鮮矣仁。

16. 子曰、惡紫之奪朱也、惡鄭聲之亂雅樂也、惡利口之覆邦家者。

17. 子曰、予欲無言。子貢曰、子如不言則小子何述焉。子曰、天何言哉、四時行焉、百物生焉。天何言哉。

18. 孺悲欲見孔子。孔子辭以疾、將命者出戶。取瑟而歌、使之聞之。

19. 宰我問、三年之喪期已久矣、君子三年不爲禮、禮必壞、三年不爲樂、樂必崩。舊穀既沒、新穀既升、鑽燧改火、期可已矣。子曰、食夫稻、衣夫錦、於女安乎。曰、安。女安則爲之。夫君子之居喪、食旨不甘、聞樂不樂、居處不安、故不爲也。今女安則爲之。宰我出。子曰、予之不仁也、子生三年、然後免於父母之懷。夫三年之喪、天下之通喪也、予也、有三年之愛於其父母乎。

20. 子曰、飽食終日、無所用心、難矣哉。不有博奕者乎、爲之猶賢乎已。

21. 子路曰、君子尚勇乎。子曰、君子義以爲上、君子有勇而無義爲亂、小人有勇而無義爲盜。

22. 子貢曰、君子亦有惡乎。子曰、有惡。惡稱人之惡者、惡居下流而訕上者、惡勇而無禮者、惡果敢而窒者。曰、賜也亦有惡乎、惡徼以爲知者、惡不孫以爲勇者、惡訐以爲直者。

23. 子曰、唯女子與小人爲難養也。近之則不孫、遠之則怨。

24. 子曰、年四十而見惡焉、其終也已。

微子第十八

1. 微子去之、箕子爲之奴、比干諫而死。孔子曰、殷有三仁焉。
2. 柳下惠爲士師、三黜。人曰、子未可以去乎。曰、直道而事人、焉往而不三黜。枉道而事人、何必去父母之邦。
3. 齊景公待孔子曰、若季氏則吾不能、以季孟之間待之。曰、吾老矣、不能用也。孔子行。
4. 齊人歸女樂、季桓子受之、三日不朝。孔子行。
5. 楚狂接輿歌而過孔子、曰、鳳兮鳳兮、何德之衰。往者不可諫、來者猶可追。已而已而、今之從政者殆而。孔子下、欲與之言、趨而辟之、不得與之言。
6. 長沮桀溺耦而耕。孔子過之、使子路問津焉。長沮曰、夫執輿者爲誰。子路曰、爲孔丘。曰、是魯孔丘與。曰、是也。曰、是知津矣。問於桀溺。桀溺曰、子爲誰。曰、爲仲由。曰、是魯孔丘之徒與。對曰、然。曰、滔滔者、天下皆是也、而誰以易之。且而與其從辟人之士也、豈若從辟世之士哉。耰而不輟。子路行以告。夫子憮然曰、鳥獸不可與同羣。吾非斯人之徒與而誰與。天下有道、丘不與易也。
7. 子路從而後、遇丈人以杖荷篠。子路問曰、子見夫子乎。丈人曰、四體不勤、五穀不分、孰爲夫子。植其杖而芸。子路拱而立。止子路宿、殺雞爲黍而食之、見其二子焉。明日、子路行以告。子曰、隱者也。使子路反見之。至則行矣。子路曰、不仕無義、長幼之節不可廢也、君臣之義、如之何其廢之。欲挈其身而亂大倫。君子之仕也、行其義也。道之不行、已知之矣。
8. 逸民、伯夷、叔齊、虞仲、夷逸、朱張、柳下惠、少連。子曰、不降其志、不辱其身、伯夷、叔齊與。謂柳下惠、少連、降志辱身矣、言中倫、行中慮、其斯而已矣。謂虞仲、夷逸、隱居放言、身中清、廢中權。我則異於是、無可無不可。

9. 大師摯適齊、亞飯干適楚、三飯繚適蔡、四飯缺適秦、鼓方叔入於河、播鼗武入於漢、少師陽擊磬襄入於海。

10. 周公謂魯公、曰、君子不施其親、不使大臣怨乎不以。故舊、無大故則不棄也。無求備於一人。

11. 周有八士。伯達伯适仲突仲忽叔夜叔夏季隨季騮。

子張第十九

1. 子張曰、士見危致命、見得思義、祭思敬、喪思哀、其可已矣。
2. 子張曰、執德不弘、信道不篤、焉能爲有、焉能爲亡。
3. 子夏之門人問交於子張。子張曰、子夏云何。對曰、子夏曰、可者與之、其不可者拒之。子張曰、異乎吾所聞、君子尊賢而容衆、嘉善而矜不能。我之大賢與、於人何所不容。我之不賢與、人將拒我。如之何其拒人也。
4. 子夏曰、雖小道、必有可觀者焉、致遠恐泥、是以君子不爲也。
5. 子夏曰、日知其所亡、月無忘其所能、可謂好學也已矣。
6. 子夏曰、博學而篤志、切問而近思、仁在其中矣。
7. 子夏曰、百工居肆以成其事、君子學以致其道。
8. 子夏曰、小人之過也必文。
9. 子夏曰、君子有三變、望之儼然、即之也溫、聽其言也厲。
10. 子夏曰、君子信而後勞其民、未信則以爲厲己也。信而後諫、未信則以爲謗己也。
11. 子夏曰、大德不踰閑、小德出入可也。
12. 子游曰、子夏之門人小子、當洒掃應對進退、則可矣、抑末也。本之則無、如之何。子夏聞之曰、噫、言游過矣。君子之道、孰先傳焉、孰後倦焉。譬諸草木區以別矣。君子之道、焉可誣也。有始有卒者、其唯聖人乎。
13. 子夏曰、仕而優則學、學而優則仕。
14. 子游曰、喪致乎哀而止。
15. 子游曰、吾友張也、爲難能也、然而未仁。
16. 曾子曰、堂堂乎張也。難與並爲仁矣。

17. 曾子曰、吾聞諸夫子、人未有自致者也。必也親喪乎。

18. 曾子曰、吾聞諸夫子、孟莊子之孝也、其他可能也、其不改父之臣與父之政、是難能也。

19. 孟氏使陽膚爲士師、問於曾子。曾子曰、上失其道、民散久矣。如得其情、則哀矜而勿喜。

20. 子貢曰、紂之不善、不如是之甚也。是以君子惡居下流、天下之惡皆歸焉。

21. 子貢曰、君子之過也、如日月之食焉。過也人皆見之、更也人皆仰之。

22. 衛公孫朝問於子貢曰、仲尼焉學。子貢曰、文武之道、未墜於地、在人。賢者識其大者、不賢者識其小者、莫不有文武之道焉。夫子焉不學、而亦何常師之有。

23. 叔孫武叔語大夫於朝曰、子貢賢於仲尼。子服景伯以告子貢。子貢曰、譬之宮牆、賜之牆也及肩、窺見室家之好、夫子之牆數仞、不得其門而入、不見宗廟之美、百官之富。得其門者或寡矣。夫子之云、不亦宜乎。

24. 叔孫武叔毀仲尼。子貢曰、無以爲也。仲尼不可毀也。他人之賢者、丘陵也、猶可踰也、仲尼、日月也、無得而踰焉。人雖欲自絕、其何傷於日月乎。多見其不知量也。

25. 陳子禽謂子貢曰、子爲恭也、仲尼豈賢於子乎。子貢曰、君子一言以爲知、一言以爲不知、言不可不慎也。夫子之不可及也、猶天之不可階而升也。夫子之得邦家者、所謂立之斯立、道之斯行、綏之斯來、動之斯和。其生也榮、其死也哀。如之何其可及也。

堯曰第二十

1. 堯曰、咨、爾舜。天之曆數在爾躬、允執其中。四海困窮、天祿永終。舜亦以命禹。曰、予小子履、敢用玄牡、敢昭告于皇皇后帝、有罪不敢赦、帝臣不蔽、簡在帝心。朕躬有罪、無以萬方、萬方有罪、罪在朕躬。周有大賚、善人是富。雖有周親、不如仁人、百姓有過、在予一人。謹權量、審法度、脩廢官、四方之政行焉。興滅國、繼絕世、舉逸民、天下之民歸心焉。所重民食喪祭。寬則得衆、信則民任焉。敏則有功、公則說。
2. 子張問於孔子曰、何如斯可以從政矣。子曰、尊五美、屏四惡、斯可以從政矣。子張曰、何謂五美。子曰、君子惠而不費、勞而不怨、欲而不貪、泰而不驕、威而不猛。子張曰、何謂惠而不費。子曰、因民之所利而利之、斯不亦惠而不費乎。擇可勞而勞之、又誰怨。欲仁而得仁、又焉貪。君子無衆寡、無小大、無敢慢、斯不亦泰而不驕乎。君子正其衣冠、尊其瞻視、儼然、人望而畏之、斯不亦威而不猛乎。子張曰、何謂四惡。子曰、不教而殺、謂之虐、不戒視成、謂之暴、慢令致期、謂之賊、猶之與人也、出納之吝、謂之有司。
3. 孔子曰、不知命、無以爲君子也。不知禮、無以立也。不知言、無以知人也。